

2020年度

医学教育共同利用拠点

# 医学教育開発研究センター

MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER

# 年報



岐阜大学  
GIFU UNIVERSITY

## はじめに

岐阜大学医学教育開発研究センターは 2001 年に医学教育分野の全国共同利用施設として設立され、今年度で 20 年目となりました。2010 年から始まった文部科学省の教育関係共同利用拠点も、医学教育分野で唯一の拠点として 3 期目の初年度の活動を、これまでの歩みの先に開始することが出来るようになりました。2 期目の活動のコアである MEDC フェロー/アソシエイト制度も、引き続き多くの参加者を得て活動を継続しています。この間、全国の医学部・医療系学部の皆様とともに、様々な教育・研究プロジェクトに関わらせていただき、日本の医学教育の発展に多少なりとも貢献をすることができました。ご協力いただきました全国の教職員、学生、医療従事者、市民ボランティアの皆様から感謝申し上げます。

年初から始まった COVID-19 の我が国での感染拡大を受けて、2020 年度の医学教育開発研究センターの取組は、波乱の中で幕を開けることとなりました。5 月に予定していた「第 21 回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修」は中止となり、同時開催を予定していた「第 76 回医学教育セミナーとワークショップ」も、急遽、Web 化できる企画を中心とした初の Web 開催でのセミナーとワークショップに変更となりました。その後の第 77 回 78 回とも引き続き Web での e 医学教育セミナーとワークショップとして開催するという今までにない対応を迫られる年となりました。また、同様に COVID-19 のために今年は 1 か月以上岐阜に滞在いただける海外からの客員教授も 1 年おきに岐阜に来てもらうマギル大学からの臨床教育 FD の講師の先生もともに迎えすることはできませんでした。

学内の取組としては、大学院博士課程における医学教育の研究を推進し、全国から 9 名の社会人大学院生を受け入れており、積極的に論文化に取り組むなかで、2 名の博士号取得者を送り出すことができました。国内初の医療者教育学修士課程も無事に開学初年度が走り出し、6 名の多職種の大学院生が（スクーリングの実施の難しい中）e-learning を中心に熱心に学びを進めています。

COVID-19 の混乱の中でもなんとかアクティブに活動を進めることのできた我々ですが、今後とも引き続きの皆さんのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。また、我々としても、今後も Teacher Training Center, Education Research Center としての使命を達成すべく、努力を続けてまいりたいと思いますので、変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター

センター長 藤崎 和彦



# 目 次

<b>MEDC 概要</b> .....	1
職員・非常勤講師	
運営協議会委員・運営委員会委員	
令和2年度事業報告	
論文・学会発表・研究費・共同研究	
アソシエイト・フェローシップ	
コロナ禍の中でのオンライン化	
<b>セミナーとワークショップ</b> .....	25
医学教育セミナーとワークショップ	
MEDC 機関誌「新しい医学教育の流れ」	
教務事務職員研修	
<b>教育活動</b> .....	39
PBL-Tutorial 教育	
テュートリアル選択配属	
医療面接実習	
地域体験実習	
医師・患者関係	
臨床推論	
医療英語・国際交流	
医学教育 I R	
<b>その他の事業</b> .....	55
大学院・研究活動	
医療者教育学修士課程	
スキルスラボ	
ホームページ	



# MEDC概要



## 職 員 名 簿

### 教 員

	氏 名	所 属	備 考
センター長 教 授	藤崎 和彦	バーチャルスキル部門	
教 授	鈴木 康之	テュートリアル部門	
特任教授	丹羽 雅之	テュートリアル部門	
准 教 授	西城 卓也	バーチャルスキル部門	
併任講師	川上 ちひろ	バーチャルスキル部門	
併任講師	今福 輪太郎	テュートリアル部門	
助 教	恒川 幸司	テュートリアル部門	
特任助教	早川 佳穂	バーチャルスキル部門	

### 客員教授・准教授

	氏 名	所 属 等
客員教授	中村 真理子	東京慈恵会医科大学教育センター 教授
客員准教授	清水 郁夫	信州大学医学教育研修センター 助教

### 特別協力研究員

氏 名	所 属 等	期 間
増田 多加子	東京薬科大学	H29. 2. 1～R 3. 1.31
鬼塚 千絵	九州歯科大学	R 2.12. 8～R 3. 6.30

### 事務職員（医学系研究科・医学部教育企画係）

	氏 名	備 考
教育企画係長	福井 依子	H30.4.1～R2.9.30
教育企画係長	中田 さおり	R 2.10. 1～
事務補佐員	福田 ゆう	育休
事務補佐員	福井 暁子	R 1. 9. 1～
事務補佐員	辻本 亜妃	R 2.10. 1～

### 非常勤職員

	氏 名	備 考
事務補佐員	脇坂 琴乃	産休
事務補佐員	藤井 梨恵子	H31. 4. 1～
事務補佐員	窪田 恭子	R 3. 2. 1～



非常勤講師

氏 名	所 属
阿部 恵子	愛知医科大学看護学部 臨床実践看護学
後藤 忠雄	県北西部地域医療センター 国保白鳥病院
若林 英樹	三重大学医学部 亀山地域医療学講座
市橋 亮一	医療法人かがやき総合在宅医療クリニック
鈴木 美砂子	岐阜県総合医療センター
松尾 かずな	名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科
永井 博弐	岐阜保健大学
鈴木 一吉	愛知学院大学歯学部 歯内治療学講座
榎谷 晃明	一丸ファルコス株式会社
<b>James Thomas</b>	慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター
浅田 義和	自治医科大学医学教育センター
宇野 哲代	ことばの泉作文研究室
寺町 ひとみ	岐阜薬科大学
田口 則宏	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
田島 嘉人	平成医療短期大学 リハビリテーション学科
布原 佳奈	岐阜県立看護大学
齊藤 裕之	山口大学医学部附属病院 臨床教育センター
半谷 眞七子	名城大学薬学部薬学科
土屋 静馬	昭和大学 医学教育学講座
藤江 里衣子	藤田医科大学医学部医学科 医療コミュニケーション
小野 香織	早稲田大学グローバル・ストラテジック・リーダーシップ研究所
小西 由樹子	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部
尾原 晴雄	沖縄県立中部病院
吉村 博	新川崎ふたばクリニック小児科皮膚科
春田 淳志	慶応義塾大学医学部教育統轄センター
松山 泰	自治医科大学医学教育センター
山田 隆司	台東区立台東病院

運営協議会委員

氏 名	所 属 等
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
鈴木 康之	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
赤池 雅史	徳島大学大学院医歯薬学研究部医療教育学 教授
福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター長 教授
山口 育子	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長
大久保 由美子	帝京大学医学部医学教育センター 教授
錦織 宏	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学教育センター 教授
山脇 正永	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授
中島 茂	岐阜大学医学部長 教授
吉田 和弘	岐阜大学医学部附属病院長 教授
下畑 享良	岐阜大学医師育成推進センター長 教授
牛越 博昭	岐阜大学地域医療医学センター 教授
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター 准教授

運営委員会委員

氏 名	所 属 等
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
鈴木 康之	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター 准教授
中島 茂	岐阜大学医学部医学科長 教授
足立 久子	岐阜大学医学部看護学科長 教授
吉田 和弘	岐阜大学医学部附属病院長 教授
青木 光広	岐阜大学医学部附属病院医療情報部長 教授
前川 洋一	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
森田 浩之	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
桐山 敏	岐阜大学医学系研究科・医学部事務長

## 令和 2 年度 事業 報告

### ●実施事業関係

#### ①インターネットテュトリアル

##### 1. MEDC onlineコース

コース名：メドギフト2020

セッション1 “歩み～あなたは、どこからどうやってここまできたのか？”

セッション2 “学びと導き～学習者と教育者の「いま」をとらえる”

セッション3 “気づきと築き～新たな教育への一歩を踏み出す”

対 象：教員、医療従事者など

期 間：常時

参加者数：27人

#### ②医学教育セミナーとワークショップ

##### 第76回 e 医学教育セミナーとワークショップ

実 施 日：5月23日（土）～24日（日）

内 容：・eカーサソフアレンス 学生支援の「お悩み相談室」

- ・ランチョンWebinar-1 数学IRとデータマネジメント ～組織間を繋ぐデータ作りを目指して～
- ・eWS-1 EBM教育とナラティブ “～”患者の語り” から問題を定式化しよう
- ・eWS-2 医療者教育を実現する “～”学びと成長を促すために～
- ・eWS-3 しくじり医学教育者 “～”教育実践の失敗から学ぶ～
- ・ランチョンWebinar-2 COVID-19パンデミック、医療者教育、そして教員養成

参加者数：91人（内 講師13人）

##### 第77回 e 医学教育セミナーとワークショップ

実 施 日：10月2日（金）～4日（日）

内 容：・eWS-1 模擬患者オンライン大交流勉強会

- ・eWS-2 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう
- ・eWS-3 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション
- ・eWS-4 動画・音声付臨床問題& eラーニング教材のつくりかた
- ・eWS-5 Post-CC OSCE の大学独自課題を作成しよう
- ・eWS-6 エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育  
～何をどのように教えればいいのか？～
- ・eWS-7 卒前教育におけるマインドフルネスプログラム
- ・eWS-8 IR活動の失敗と成功の共有～第『2.5』回医療系IRミーティング

参加者数：187人（内 講師36人）

##### 第78回 e 医学教育セミナーとワークショップ

実 施 日：1月22日（金）～23日（土）

内 容：・Special Webinar 小児科から医学教育へ

- ・eパネルディスカッション 専門医教育の充実を目指して

～小児科専門医を叩き台にして考える～

- ・ eWS-1 レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用して、手も頭も動かす省察
- ・ eWS-2 多職種連携を円滑に進めるためのコンテキスト（文脈）を理解するにはどうしたらよいか？
- ・ eWS-3 臨地実習において教育上の調整が必要な学生への支援を考えよう
- ・ eWS-4 あなたはなぜ教育するのか？－あなたの教育哲学を考える－
- ・ eWS-5 学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察－5つの教育実践例
- ・ eWS-6 英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！

参加者数：297人（内 講師34人）

### ③第21回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（但し、コロナの影響で中止）

主 催：国立大学医学部長会議常置委員会  
 （教育制度・カリキュラムに関する小委員会）  
 一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
 （医学教育委員会・カリキュラム調査専門委員会）

実 施 日：5月22日（金）～24日（日）

会 場：岐阜大学医学部・サテライトキャンパス（岐阜市）

内 容：医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図ることにより、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的として、講義、全体・班別討議等を行い、知識と理解を深める。

参加者数：0人

### ④客員教授等招聘

海外客員教授：コロナ禍により招聘せず

国内客員教授：中村真理子（客員教授、東京慈恵会医科大学教育センター教授）

- ・ 第77回医学教育セミナーとワークショップ  
eWS-8 「IR活動の失敗と成功の共有」企画者
- ・ 医学教育共同利用拠点事業 FD/SD用 eラーニング教材の作成と指導  
「認証評価」

国内客員准教授：清水郁夫（客員准教授、信州大学医学教育研修センター助教）

- ・ 第76回医学教育セミナーとワークショップ  
eWS-3 「しくじり医学教育者～教育実践の失敗から学ぶ～」企画者  
ランチョンWebinar-2 「COVID-19 パンデミック、医療者教育、そして教員養成」講師
- ・ 医療者教育学専攻 講師  
教育理論と効果的な教育方法  
学習者評価の原理と評価方法
- ・ 医学部医学科講義  
臨床推論実習（4年生オンライン授業：医療安全と診断学、3時間）

## ⑤医学教育教材の研究・開発

### テュトリアル部門

- ・テュトリアル・システムの研究・開発
- ・模擬患者参加型臨床医学教育の研究・開発

### バーチャルスキル部門

- ・マルチメディア教材の研究・開発
- ・バーチャル患者モデル（仮想モデル）の研究・開発

## ⑥学外的対応：各種会議等での講演及び学外へのノウハウ提供

大学（病院含む）、民間企業等での各種会議等に招聘され、講演等を実施しノウハウを幅広く提供した。（テュトリアル教育、模擬患者によるコミュニケーション・トレーニングなど各種）

## ●会議開催関係

### 1. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営協議会

	開 催 日
第1回	令和 3年 2月19日(金)

### 2. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営委員会

	開 催 日
第1回	令和 3年 3月 5日(金)

## 論文・学会・研究活動

### 著書 (和文)

- 1) 丹羽雅之. 第9章 3 抗炎症薬・鎮痛薬 A 概説/5 抗アレルギー薬/6 抗リウマチ薬/第10章 2-B 痛風治療薬. シンプル薬理学 改訂第6版 (野村隆英・石川直久・梅村和夫編), 南江堂, 東京, 2020, p.221 - 237.
- 2) 川上ちひろ. 発達障害のある子どもの性・人間関係の成長と支援—関係をつくる・きずく・つなぐ. 遠見書房, 東京, 2020.
- 3) 川上ちひろ. 第2章 19 学校保健における連携/第3章 9 合同PBL (3) 地域医療/第3章 19 多職種連携教育の学習目標設定/第3章 20 多職種連携教育の評価方法. 実践 多職種連携教育 (寺崎文生・赤澤千春監修, 駒澤伸泰編著), 中外医学社, 東京, 2020.
- 4) 川上ちひろ. 第8章 発達障害のある成人女性のサポート. 大人の発達障害の理解と支援 (渡辺慶一郎編著) ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ (柘植雅義監修), 金子書房, 東京, 2020.

### 著書 (欧文)

- 1) Amy BM Tsui, Rintaro Imafuku. Silence in EFL Classrooms Revisited. In: Jim King & Seiko Harumi (Eds.). East Asian Perspectives on Silence in English Language Education, Multilingual Matters. Bristol, UK, 2020, p.166 - 181.
- 2) Susan M Bridges, Rintaro Imafuku (Eds.). Interactional Research into PBL. West Lafayette, Indiana, Purdue University Press, 2020.
- 3) Susan M Bridges, Rintaro Imafuku. Why focus on interactions in problem - based learning? In: Susan M Bridges & Rintaro Imafuku (Eds.). Interactional Research into PBL. West Lafayette, Indiana, Purdue University Press, 2020, xiii-xv.
- 4) Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Takuya Saiki, Masayuki Niwa, Yasuyuki Suzuki, Kazuhiko Fujisaki. Interactive discourse in interprofessional tutorial groups, dealing with conflicting views and meaning construction. In: Susan M Bridges & Rintaro Imafuku (Eds.). Interactional Research into PBL. West Lafayette, Indiana, USA, Purdue University Press, 2020, p.223-246.
- 5) Rintaro Imafuku. Undergraduate research in Japan: beyond the dichotomy of product-oriented and process-oriented approaches. In: Nancy H. Hensel & Patrick Blessinger (Eds.). International Perspectives on Undergraduate Research. Palgrave Macmillan, Cham, Switzerland, p.99 - 114.

### 総説 (和文)

- 1) 西城卓也. 医療者教育学を学ぶ修士課程 グローバルスタンダードの称号 MHPE を目指して. 地域医学 2020 ; 4(8) : 598 - 603.
- 2) 今福輪太郎. 質的研究を実施するうえで知っておきたい基本理念. 薬学教育 2021 ; 5 : 2020 - 002.
- 3) 川上ちひろ. 見えにくい女性の発達障害～女性ゆえの困難とは、そしてともに生きるとは～第3回発達障がいを持っていても自分らしく生きることができる社会に向けて. フレンテ三重 Web 限定男女共同参画ゼミ ; 2020.
- 4) 川上ちひろ. シリーズ連載第1回 対応が難しいと感じる新人看護師の理解と、効果的な対応方法. medical forum CHUGAI Vol. 24, No2 ; 2020 : 29 - 32.
- 5) 川上ちひろ. 連載第1回 対応が難しい新人看護師への効果的な教育・支援の具体策. 看護人材育成 2020 ; 17(1) : 37 - 42.
- 6) 平岡佐織, 山田瑠美子, 川上ちひろ. 連載第2回 対応が難しい新人看護師への効果的な教育・支援の具体策対応が難しい新人看護師に対する「学習者の問題分析のためのフレームワーク」を用いた事例検討の導入. 看護人材育成 2020 ; 17(2) : 26 - 32.
- 7) 山田瑠美子, 平岡佐織, 川上ちひろ. 連載第3回 対応が難しい新人看護師への効果的な教育・支援の具体策「学習者の問題分析のためのフレームワーク」を用いた部署での分析と新人担当副看護師長会での事例検討. 看護人材育成 2020 ; 17(3) : 81 - 90.
- 8) 川上ちひろ. 発達障害およびその傾向がある学生の、遠隔授業における課題. 看護教育 2020 ;

61(11) : 1028 - 1032.

- 9) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第 1 回学習者支援とは. 看護教育 2021 ; 62(1) : 70 - 73.
- 10) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第 2 回発達障害とは (その 1) 一般的な理解編. 看護教育 2021 ; 62(2) : 186 - 189.
- 11) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第 1 回 看護補助者から看護師に立場が変わった新人看護師の事例. 看護管理 2021 ; 31(2) : 152 - 156.
- 12) 川上ちひろ. 発達障害など、対応が難しいと感じる学習者への教育・支援 第 3 回発達障害とは (その 2). 看護教育 2021 ; 62(3) : 280 - 283.
- 13) 川上ちひろ. 新人看護師とプリセプターの視点から考える よりよい新人看護師教育 誰もが働きやすい職場を目指すために 第 2 回. 看護管理 2021 ; 31(3) : 246 - 249.

### 総説 (欧文)

- 1) Arunkumar N, Langan TJ, Stapleton M, Kubaski F, Mason RW, Singh R, Kobayashi H, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii K, Orii T, Fukao T, Tomatsu S. Newborn screening of mucopolysaccharidoses: past, present, and future. *J Hum Genet*, 2020 Jul; 65(7): 557 - 567.  
doi: 10.1038/s10038-020-0744-8.
- 2) Hara A, Niwa M, Noguchi K, Kanayama T, Niwa A, Matsuo M, Hatano Y, Tomita H. Galectin - 3 as a Next - Generation Biomarker for Detecting Early Stage of Various Diseases. *Biomolecules*, 2020 Mar; 10(3), 389.  
doi: 10.3390/biom10030389.
- 3) Hara A, Niwa M, Kanayama T, Noguchi K, Niwa A, Matsuo M, Kuroda T, Y Hatano Y, Okada H, Tomita H. Galectin - 3: A Potential Prognostic and Diagnostic Marker for Heart Disease and Detection of Early Stage Pathology. *Biomolecules*, 2020 Sep; 10(9), 1277.  
doi:10.3390/biom10091277.

### 原著 (和文)

- 1) 庄司雅紀, 藤原篤子, 今福輪太郎, 島田京司, 恩田光子. 薬局薬剤師が抗うつ薬の服用に抵抗感を抱く患者に対して実践している工夫に関するテキストアナリシス. *日本精神薬学会誌* 2020 ; 4(1) : 42 - 49.
- 2) 川上ちひろ, 恒川幸司, 今福輪太郎. 岐阜大学医学部における初年次の医学生－看護学生連携医療教育の実践報告. *保健医療福祉連携* 2020 ; 13(1) : 21 - 26.
- 3) 外山尚吾, 青木杏奈, 藤崎和彦, 錦織宏. 「医学とは何か」を問う教育の実態調査 : 中川米造の医学概論の観点から. *医学教育* 2020 ; 51(4) : 379 - 388.
- 4) 堀田亮, 川上ちひろ. 実践報告 いこまいセミナーを通じた学生支援の取り組み 3 全構成員が参加可能なグループプログラムへの発展. *岐阜大学教育推進・学生支援機構年報* 5号 2019:178 - 189.
- 5) 早川佳穂, 今福輪太郎, 川上ちひろ, 恒川幸司, 丹羽雅之. 実践報告 海外臨床実習における e ポートフォリオシステムの開発と実践. *岐阜大学教育推進・学生支援機構年報* 5号 2019:170 - 177.
- 6) 堀田亮, 川上ちひろ, 高口僚太郎, 奥村真衣. 実践報告 いこまいセミナーの実践報告 4 基盤的能力獲得への寄与. *岐阜大学教育推進・学生支援機構年報* 第 6 号 2020 : 153 - 164.
- 7) 川上ちひろ, 堀田亮. 看護教員が感じる発達障害およびその特性がある看護学生の教育支援上の困難と、発達障害のイメージ. *CAMPUS HEALTH* 2021 ; 58(2) : 印刷中.

### 原著 (欧文)

- 1) Suzuki Y, Taylor M, Orii KE, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Assessment of Activity of Daily Life in Mucopolysaccharidosis Type II Patients with Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Diagnostics* 2020 Jan; 10(1): 46.
- 2) Konishi E, Saiki T, Kamiyama H, Nishiya K, Tsunekawa K, Imafuku R, Fujisaki K, Suzuki Y. Improved cognitive apprenticeship clinical teaching after a faculty development program. *Pediatr Int.* 2020 May; 62(5): 542 - 548.
- 3) Nishiya K, Sekiguchi S, Yoshimura H, Takamura K, Wada H, Konishi E, Saiki T, Tsunekawa K, Fujisaki K, Suzuki Y. Good clinical teachers in pediatrics: The perspective of pediatricians in

- Japan. *Pediatr Int.* 2020 May; 62(5): 549 - 555.
- 4) Yoshimura M, Saiki T, Imafuku R, Fujisaki K, Suzuki Y. Experiential learning of overnight home care by medical trainees for professional development: an exploratory study. *International Journal of Medical Education* 2020 Jul; 11: 146 - 154.
  - 5) Nunoharaa K, Imafuku R, Saiki T, Susan M. Bridges, Kawakami C, Tsunekawa K, Niwa M, Fujisaki K, Suzuki Y. How does video case-based learning influence clinical decision-making by midwifery students? An exploratory study. *BMC Medical Education* 2020 Mar; 20 (1): 67 - 77.
  - 6) Masutani T, Yamada S, Hara A, Takahashi T, Green PG, Niwa M. Exogenous Application of Proteoglycan to the Cell Surface Microenvironment Facilitates to Chondrogenic Differentiation and Maintenance. *Int J Mol Sci* 2020 Oct; 21(20): 7744.
  - 7) Miyai M, Kanayama T, Hyodo F, Kinoshita T, Ishihara T, Okada H, Suzuki H, Takashima S, Wu Z, Hatano Y, Egashira Y, Enomoto Y, Nakayama N, Soeda A, Yano H, Hirata A, Niwa M, Sugie S, Mori T, Maekawa Y, Iwama T, Matsuo M, Hara A, Hiroyuki Tomita. Glucose transporter Glut1 controls diffuse invasion phenotype with perineuronal satellitosis in diffuse glioma microenvironment. *Neurooncol Adv* 2020 Oct; 3(1): vdaa150.  
doi: 10.1093/noajnl/vdaa150
  - 8) Tsunekawa K, Suzuki Y, Shioiri T. Identifying and supporting students at risk of failing the National Medical Licensure Examination in Japan using a predictive pass rate. *BMC Medical Education* 2020 Nov; 20(1): 419.  
doi: 10.1186/s12909-020-02350-8
  - 9) Takamura A, Imafuku R. What is the impact of the Rashomon approach in primary care education?: An educational case report of implementing dialogue and improvisation into medical education. *BMC Medical Education* 2021 Mar; 21(1): 143.  
doi: 10.1186/s12909-021-02570-6

## 研究費

- 1) 研究代表者：鈴木康之；文科省科学研究費基盤研究 B：我々は将来の医療を誰に託すのか？：医学部入学者の社会的背景の解明。2020 - 2022 年度；9,000 千円（3,800：2,600：2,600 千円）
- 2) 分担研究者：鈴木康之；難治性疾患等政策研究事業 ライツゾーム病、ペルオキシゾーム病（副腎白質ジストロフィーを含む）における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究（主任：奥山虎之）。2020 - 2022 年度；1,200 千円（400：400：400 千円）
- 3) 研究協力者：鈴木康之；政策科学総合研究事業 ICT を活用した卒前・卒後のシームレスな医学教育の支援方策の策定のための研究（主任：門田守人）。2018 - 2020。配分なし。
- 4) 研究代表者：西城卓也；医学教育・研修部門の機能、及び専任スタッフの役割とアイデンティティに関する研究。2020 年度；7,410 千円。
- 5) 研究代表者：今福輪太郎，分担研究者：西城卓也；外国人患者と医療者の調整行動に着目した医療のための「やさしい日本語」教育の開発。2020 - 2024 年度；4,290 千円（1,300：1,170：910：910 千円）。
- 6) 分担研究者：西城卓也；我々は将来の医療を誰に託すのか？：医学部入学者の社会的背景の解明。2020 年度。11,700 千円。
- 7) 研究代表者：川上ちひろ；科学研究費助成事業（若手研究）。対応に困る医療系学生や若手医療者への教育的対応法を学ぶ学習プログラムの構築。2018 - 2021 年度。
- 8) 分担研究者：川上ちひろ；岐阜県発達障害学生就労支援研究会（堀田亮、川上ちひろ、他）。発達障害のある学生の修学・就職支援方策の検討、研究。技術交流研究会協力会助成費。2019 - 2021 年度。
- 9) 分担研究者：恒川幸司，研究代表者：中島美千世；科学研究費補助金挑戦的研究（萌芽）：高大接続に基づくベストミックス評価選抜法の開発：来るべき大学入試改革を見据えて。2019 - 2021 年度；1,500 千円（1,000：250：250 千円）

## 学会の役員、委員等

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会理事，評議員，医学教育専門家委員会 委員長（～現在）
- 2) 医療コミュニケーション研究会 会長（～現在）
- 3) RIAS 研究会日本支部 代表（～現在）
- 4) 日本ヘルスコミュニケーション学会 理事（～現在）



- 5) 日本医療福祉政策学会 幹事 (～現在)
- 6) 日本医学教育学会 医学教育専門拡大WG委員会 委員長 (～現在)
- 7) 日本保健医療行動科学会 顧問 (～現在)
- 8) 大学イノベーション日本 幹事 (～現在)

鈴木康之：

- 1) 日本医学教育学会 監事 (2020年～2024年)
- 2) 日本小児科学会 代議員 (2002年～現在), 試験運営委員会 (2009年～現在), 専門医制度運営委員会 (2018年～現在)
- 3) 日本先天代謝異常学会 評議員・監事 (2019年～現在)
- 4) 東海臨床遺伝・代謝懇話会 世話人 (2015年～現在)
- 5) 日本シミュレーション医療教育学会 理事 (～現在)
- 6) 日本ムコ多糖症研究会 代表幹事 (2017年～現在)

丹羽雅之：

- 1) 日本炎症・再生医学会 評議員 (～現在)
- 2) 日本薬理学会 評議員 (～現在)
- 3) 日本医学教育学会 評議員 (～現在)
- 4) 日本臨床薬理学会 評議員 (～2019年12月4日) (功労会員：2019年12月5日～現在)
- 5) 日本医学教育学会 広報・情報基盤委員会 委員 (～現在)
- 6) 医療系 e-learning 全国交流会 副会長 (～現在)
- 7) 日本シミュレーション医療教育学会 監事, 評議員 (～現在)
- 8) 教育システム情報学会人材育成委員会 医療・看護部会 委員 (～現在)

西城卓也：

- 1) 日本医学教育学会 医学教育専門家委員会 委員 (2012年～2020年)
- 2) 日本プライマリ・ケア連合学会 中部地区代議員 (2015年4月～現在)
- 3) International Conference on Faculty Development in the Health Professions, Steering Committee member (2019年1月～現在)
- 4) 日本医学教育学会 理事 (2020年6月～現在)

川上ちひろ：

- 1) 日本医学教育学会 代議員 (2018年～現在)

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会 編集委員 (2013年～現在)
- 2) 日本医学教育学会 編集委員会 委員 (2019年5月～現在)
- 3) 日本医学教育学会 研究推進委員会 委員 (2020年7月～現在)
- 4) 日本シミュレーション医療教育学会 評議員 (2020年10月～現在)
- 5) 日本歯科医学教育学会 代議員 (2021年1月～現在)

恒川幸司：

- 1) 医療系 IR 友の会 世話人 (～現在)
- 2) 日本医学教育学会 教育プログラム評価推進委員会 委員 (2020年4月～現在)
- 3) 日本医学教育学会 入学者選抜部会 部会員 (2020年4月～現在)

早川佳穂：

- 1) 医療系 e-learning 全国交流会 世話人 (～現在)

## **学会等の開催**

藤崎和彦：

- 1) 第38回 医療コミュニケーション研究会例会；会長 (2020.12.)

川上ちひろ：

- 1) シンポジウム；令和2年度岐阜大学技術交流研究会事業「COVID-19 流行化で発達障害学生には何が起こっていたのか」(2020.9.6, オンライン)

## **学術雑誌**

丹羽雅之，今福輪太郎，早川佳穂：

- 1) 新しい医学教育の流れ；編集委員（～現在）

鈴木康之：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員（2013年～現在）

丹羽雅之：

- 1) *Biomolecules*; Editorial board（2020年～現在）

西城卓也：

- 1) 日本医学教育学会誌；副編集長(2020年6月～現在)

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員（2013年～現在）
- 2) *BMC Medical Education*; Associate Editor（2015年～現在）
- 3) 医学教育；編集委員（2019年～現在）

## **学会招待講演，招待シンポジスト，座長**

藤崎和彦：

- 1) シンポジウム「多様性を理解し、支える医療コミュニケーション」；座長（第12回日本ヘルスマニケーション学会学術集会，2020.9.27）

鈴木康之：

- 1) パンデミックを乗り越え、新たな医療人育成へ（第52回日本医学教育学会特別講演，オンライン，2020.7. 鹿児島）
- 2) 日常一般的な症状から発見される小児の難病について（第2回東海マスキリーニング市民公開講座，オンライン，2021.2. 岐阜）
- 3) 医学教育の現状と今後の展望．（東海漢方シンポジウム2021，オンライン，2021.3.6. 岐阜）

丹羽雅之：

- 1) セッション1；座長（第15回医療系eラーニング全国交流会，リアルタイムオンライン，2020.12.19 - 20. 獨協医科大学）

川上ちひろ：

- 1) 大学教育改革フォーラム「分科会学生支援」；座長（オンライン，2021.3.6）

今福輪太郎：

- 1) シンポジウム「多職種連携教育の課題とシミュレーションの可能性」；演者：多職種連携教育導入に活用できる医学教育理論（第8回日本シミュレーション医療教育学会学術大会，2020.10, 高槻）

恒川幸司：

- 1) 真に医学教育改革に資するIRとは？～第2回医療系IR友の会ミーティング．プレコンgresワークショップ；座長（第52回医学教育学会大会，オンライン，2020.7.18 - 19, 誌上発表）
- 2) 第16回岐阜大学大学院医学系研究科・医学部・附属病院学術研究発表会；座長（2021.3.5, 岐阜）

## **学会・研究会 一般演題**

- 1) 高永純平，有村佳祐，韓成龍，水本遼馬，楊明霄，今福輪太郎．留年期間中に湧き起こる感情に医学生はどのように向き合うのか．（第52回日本医学教育学会大会，2020，誌上発表）
- 2) 片岡裕貴，磯部真倫，今福輪太郎，草島邦夫，小林元，高見秀樹．ワークショップ：医学教育研究ははじめの一步－準実験法．（第52回日本医学教育学会大会，2020，誌上発表）
- 3) 川上ちひろ，今福輪太郎，早川佳穂，恒川幸司．医療系と教育系学部での多職種連携教育実践報告（第2報）．（第52回日本医学教育学会大会，2020，誌上発表）

- 4) 早川佳穂, 今福輪太郎, 恒川幸司, 川上ちひろ, 鈴木康之. ボランティア研修への協力を通じた医療系学生の学び (第 52 回 日本医学教育学会大会, 2020, 誌上発表)
- 5) 早川佳穂, 丹羽雅之. オンラインでの模擬患者参加型教育の可能性を考える (医療系 e ラーニング全国交流会 プチ交流会, 2020.7.4, オンライン)
- 6) 瀬戸山陽子, 川上ちひろ, 青木昭子, 皆川愛. 障害を持つ医療系学生にまつわる課題と教育的なかわり～当事者の「語り」の映像から考える～. (第 52 回 日本医学教育学会大会, 2020.7.18 - 19, 誌上発表)
- 7) 恒川 幸司, 鈴木 康之, 塩入 俊樹. 入学者選抜に関する長期アウトカム調査 1979 年入試改革の事例検討から (第 52 回医学教育学会大会, 2020.7.18 - 19, 誌上発表)
- 8) 早川佳穂, 浅田義和, 恒川幸司, 西城卓也. 医療者教育学を学ぶ社会人大学院生による Moodle 上での協働学習の促進を目指して (MoodleMoot Japan2021, 2021.2.19)

## 学術賞等の受賞

なし

## 社会活動

藤崎和彦:

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 実施小委員会 模擬患者標準化専門部会 委員 (～現在)
- 2) 大和郡山市 すこやか 21 計画推進委員会 アドバイザー (～現在)
- 3) 藤田医科大学 客員教授 (～現在)
- 4) 兵庫医科大学 特別招聘教授 (～現在)
- 5) 京都府立医科大学 客員講師 (～現在)
- 6) 滋賀医科大学 非常勤講師 (～現在)
- 7) 九州歯科大学 非常勤講師 (～現在)
- 8) 兵庫医療大学 非常勤講師 (～現在)
- 9) 聖隷クリストファー大学 非常勤講師 (～現在)

鈴木康之:

- 1) 日本ムコ多糖症親の会 顧問 (～現在)
- 2) ALD 親の会 顧問 (～現在)
- 3) 国立大学医学部長会議 教育制度・カリキュラムに関する小委員会 委員 (2013 年度～2020 年度)
- 4) 国立大学医学部長会議 臨床教育合同会議 委員 (2014 年度～2020 年度)
- 5) 日本医学教育評価機構評価委員会 委員, 理事 (2015 年度～2020 年度)

丹羽雅之:

- 1) 岐阜聖徳学園大学看護学部 非常勤講師 (～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校看護学科 非常勤講師 (～現在)
- 3) 岐阜県立衛生専門学校助産学科 非常勤講師 (～現在)

西城卓也:

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構 サーベイヤー(～現在)
- 2) 京都大学医学部 客員研究員(～現在)
- 3) 東京大学医学部 客員研究員(～現在)
- 4) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 非常勤医師(～現在)
- 5) 清流の国岐阜総合診療専門研修プログラム管理委員会委員(2017 年度～現在)
- 6) 愛知医科大学医学部 カリキュラム評価委員会 外部委員 (2019 年 4 月～現在)
- 7) 名古屋大学医学部 カリキュラム委員会 外部委員 (2020 年 4 月～現在)

川上ちひろ:

- 1) 社会医療法人聖泉会聖十字病院 倫理審査委員会 委員 (2018 年～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科 非常勤講師 (2019 年～現在)
- 3) 訪問看護ステーションサーラ 非常勤看護師 (保健師) (2007 年～現在)

今福輪太郎：

- 1) 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔講座 歯学教育部門 兼任講師 (2013年～現在)
- 2) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業 担当教員 (2014年～2019年)
- 3) 大垣北高等学校地域共創フラッグシップハイスクール (FRH) 事業 担当教員 (2019年～現在)

恒川幸司：

- 1) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業 担当教員 (2014年～2019年)
- 2) 大垣北高等学校地域共創フラッグシップハイスクール (FRH) 事業 担当教員 (2019年～現在)
- 3) 国際医学技術専門学校 非常勤講師 (～現在)
- 4) あいち福祉医療専門学校 非常勤講師 (～現在)
- 5) 医療法人かがやき倫理審査委員会 委員 (2017年～現在)

早川佳穂：

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 標準模擬患者養成・管理小委員会 委員 (～現在)
- 2) 朝日大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師 (～現在)
- 3) 国際医学技術専門学校 非常勤講師 (～現在)

## 専門医等

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

鈴木康之：

- 1) 日本小児科学会専門医
- 2) 厚生労働省臨床研修指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

丹羽雅之：

- 1) 日本臨床薬理学会認定薬剤師
- 2) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

西城卓也：

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

川上ちひろ：

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

## 報告

- 1) 鈴木康之. 巻頭言：国の文化と医学教育の多様性. JACME Newsletter No.7, 2020 : 1 - 2.
- 2) 西城卓也, 鋪野紀好. 我流よ, さらば! 医療者教育学を体系的に学ぼう. 週刊医学界新聞 第 3362号, 2020.
- 3) 川上ちひろ. アナウンスメント：第 76 回医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2020, 51(1) : 84 - 85.
- 4) 錦織宏, 西城卓也. 9 - 6 : オンライン教育の展開における学修弱者への配慮. 医学教育 2020, 51(3) : 309 - 311.
- 5) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 鈴木康之, 丹羽雅之, 恒川幸司, 早川佳穂, 藤崎和彦, 西城卓也. 12 - 4 : 医学教育セミナーとワークショップのオンラインシステムを用いた開催設計の試み. 医学教育 2020, 51(3) : 342 - 343.
- 6) 春田淳志, 川上ちひろ, 早川佳穂. 13 - 1 : 医学教育修士課程における多職種連携教育オンラインプログラムの実践報告ーオンラインに適したインタラクションの工夫ー. 医学教育 2020, 51(3) : 344 - 347.
- 7) 西城卓也, 今福輪太郎, 恒川幸司, 浅川義和. 13 - 4 : Post COVID - 19 時代の医療者教育における新たな再考テーマ：医療者教育学修士課程の実践から. 医学教育 2020, 51(3) : 351 - 353.

- 8) 川上ちひろ. 意見：デジタル・ディバイド～授業や試験のオンライン化で新たに生じる格差への危惧～. 医学教育 2020, 51(4) : 455 - 456.
- 9) 川上ちひろ. ニュース：第 76 回 e 医学教育セミナーとワークショップ 実践報告. 医学教育 2020, 51(4) : 462 - 463.
- 10) 今福輪太郎. アナウンスメント：第 77 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2020, 51(4) : 464 - 465.
- 11) 今福輪太郎. ニュース：第 77 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2020, 51(5) : 620 - 621.
- 12) 藤崎和彦. アナウンスメント：第 78 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 2020, 51(6) : 708 - 709.
- 13) 鈴木康之. 特別掲載：パンデミックを乗り越え、新たな医療人育成へ. 医学教育 2021, 52(1) : 1 - 4.

### 新しい医学教育の流れ 報告

- 1) 恒川幸司, 今福輪太郎, 川上ちひろ, 西城卓也. 評価を「自己評価」する～妥当性の検証によるブラッシュアップとその後. 新しい医学教育の流れ 20(1) ; 2020 : 37 - 39.
- 2) 西城卓也, 今福輪太郎, 恒川幸司, 川上ちひろ. 知と実践の往来、そしてフェローとアソシエイトの仲間！. 新しい医学教育の流れ 20(1) ; 2020 : 47 - 50.
- 3) 川上ちひろ. 活動報告：医学教育セミナーとワークショップのオンライン開催. 新しい医学教育の流れ 20(2) ; 2020 : 88 - 91.
- 4) 川上ちひろ, 堀田亮, 船越高樹. 学生支援の「お悩み相談室」. 新しい医学教育の流れ 20(2) ; 2020 : 96 - 98.
- 5) 恒川幸司, 浅田義和, 江端弘樹. 教学 IR とデータマネジメント ～組織間を繋ぐデータ作りを目指して～. 新しい医学教育の流れ 20(2) ; 2020 : 99 - 101.
- 6) 今福輪太郎, 恒川幸司, 川上ちひろ, 早川佳穂, 西城卓也, 猪田宏美. 医療者教育を表現する一学びと成長を促すために一. 新しい医学教育の流れ 20(2) ; 2020 : 107 - 109.
- 7) 藤崎和彦, 川上ちひろ, 早川佳穂. 模擬患者オンライン大交流勉強会. 新しい医学教育の流れ 20(3) ; 2021 : 144 - 146.
- 8) 園井教裕, 今福輪太郎, 春田淳志, 後藤亮平. 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう. 新しい医学教育の流れ 20(3) ; 2021 : 148 - 150.
- 9) 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝行, 唐牛祐輔. IR 活動の失敗と成功の共有 ～第『2.5』回医療系 IR ミーティング. 新しい医学教育の流れ 20(3) ; 2021 : 170 - 172.

### 報道

- 1) 川上ちひろ. コロナ禍が発達障害の学生に影響：NHK NEWS WEB (2020.9.7)
- 2) 川上ちひろ. 発達障害ある大学生 どう支援：中日新聞 (2020.9.7)
- 3) 川上ちひろ. 発達障害学生 支援策探る：岐阜新聞 (2020.9.7)
- 4) 【岐阜市】県内 5 校の医療系学生によるオンライン多職種医療連携授業：CCN エリアトピックス 715 (2020.11.10)
- 5) 医療や看護を志す学生、オンライン共同授業：岐阜新聞 (2020.11.13)
- 6) 西城卓也, 今福輪太郎. 医療者教育のエキスパートを育成する、日本初・唯一の修士課程が誕生。：岐大のいぶき No.40 2020-2021 Autumn - Winter.
- 7) 鈴木康之. 岐阜大・鈴木教授 あす最後の講義：岐阜新聞 (2021.1.21)
- 8) 岐阜大医学教育開発研究センター セミナーとワークショップを開催：文教速報 (2021.2.10)
- 9) 岐阜大学、医学教育 セミナー&ワークショップ：文教ニュース (2021.2.15)

### 他大学 FD・その他

藤崎和彦：

- 1) 第 20 回 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会 代表世話人 (2020.11.7 - 8, 岐阜市)
- 2) 北陸大学医療保健学部 教職員研修会世話人 (2020.12.23, 金沢市)

- 3) 神戸学院大学薬学部 教員 FD 研修会世話人 (2021.2.4, 神戸市)
- 4) RIAS 研究会 日本支部 第 16 回 RIAS トレーニング・ワークショップ 代表 (2021.3.20 - 21, 長久手市)

鈴木康之 :

- 1) 掛川西高等学校大学 模擬講義「医師への道のり」(2020.9.2, オンライン授業)

川上ちひろ :

- 1) 大分県福祉保健部医療政策課 令和 2 年度専任教員継続研修会 : 発達障害およびその傾向がある看護学生の理解と支援 (2020.8.1, オンライン)
- 2) 長野県教育委員会保健厚生課 令和 2 年度性に関する指導研修会 : 特別支援が必要な子どもたちへの性の支援 (2020.8.5, 塩尻市)
- 3) 公立大学法人神戸市看護大学 臨地実習指導者研修会 : 発達障害およびその傾向がある看護学生の支援～看護学実習に焦点を当てて～ (2020.9.3, オンライン)
- 4) 社会医療法人財団聖フランシスコ会姫路聖マリア病院看護部 : 「人材育成」対応の難しい新卒看護師および学生への関わり方 (2020.9.28, オンライン)
- 5) 福井県看護協会 看護基礎教育検討委員会研修会 : 対応困難な学生への具体的な支援方法を考えるーこれまでの対応をふりかえり、より良い対応の在り方を検討するー (2020.10.10, オンライン)
- 6) 岐阜県発達障害者支援センター 令和 2 年度岐阜県ペアレント・メンター養成研修 : フォローアップ研修 (2020.10.31 日, オンライン)
- 7) 長崎県看護キャリア支援センター 令和 2 年度看護教員・施設教育担当者研修 : 発達障害の特性がみられる学生・看護師への理解と支援 (2020.11.7, 佐世保市)
- 8) 岐阜県看護協会 教育担当者研修 : 対応の難しい新人看護師への関わり (2020.11.11 日, 岐阜市)
- 9) 岐阜県看護協会 : 価値観の違うスタッフ、患者・家族とのコミュニケーション法 (スタッフ編) (2020.11.20, 岐阜市)
- 10) 岐阜県立西濃高等特別支援学校 : 令和 2 年度「地域支援研修会」発達に気になる子どもたちの思春期 (2020.12.14, 大垣市)
- 11) 令和 2 年度 岐阜大学教育推進・学生支援機構基盤教育センター 第 3 回 FD・SD : Teams や Zoom を遠隔授業でどう活用するか? 「人について学ぶ, 人に触れる, 岐阜の医療を知る, そして岐阜を感じる : 医学科 1 年生の地域体験実習, オンラインでやってみました」(座長 : 廣内大介・西城卓也, 発表者 : 川上ちひろ・今福輪太郎・早川佳穂, 2020.12.21, オンライン)
- 12) 名古屋家庭裁判所 : 実務研究 1 発達障害がある少年による性的な問題行動のアセスメントおよび介入 (2021.1.25, 名古屋市)
- 13) 国立障害者リハビリテーションセンター : 令和 2 年度発達障害地域生活・就労支援者「成人期の生徒関係性」(2021.2.5, オンライン)
- 14) 岐阜県立大垣特別支援学校 : 令和 2 年度性教育実践事例検討会 (2021.2.10, 大垣市)
- 15) 公益財団法人兵庫県看護協会神戸中部支部 : 神戸中部支部委員会・研修「発達障害のある看護師への対応」(2021.2.18, オンライン)
- 16) 東京慈恵会医科大学看護学科 FD・SD 研修会 : 発達障害の特性のみられる学生の理解と支援方法 (2021.3.5, オンライン)
- 17) 広島県・特定非営利活動法人広島県自閉症協会 : 令和 2 年度広島県発達障害啓発セミナー「発達障害女子を支える～発達障害×女性の課題を理解し支援する～」(2021.3.7, オンライン)

恒川幸司 :

- 1) 聖隷クリストファー大学・大学院 2020 年度大学院リハビリテーション科学研究科 教育学コース 設立記念公開講座 : 医学教育の視点から見た療法士教育への提言 ; 講師 (2020.9.19, オンライン)

岐阜新聞  
2020.9.7 掲載  
川上講師

# コロナ禍で環境変化、ストレス

## 発達障害学生

## 支援策探る



オンラインシンポジウムで発言する井川典克院長(右奥)  
岐阜市黒野、平成医療短期大

### 岐阜大がシンポ 医師や専門家、現状報告

コロナ禍が発達障害のある学生に及ぼす影響について考えるシンポジウムが6日、オンラインで開かれ、発達障害に詳しい医師や教育、就労支援者ら4人が、それぞれの観点から捉えた学生の現状を報告し、今後の支援の在り方を議論した。

(武藤直子)

岐阜大が「COVID-19流行下で発達障害学生には何が起こっていたのか」と題して開催。大学の学生支援担当や特別支援学級の担任など県内外の約160人が聴講した。

厚生労働省と名古屋大学生支援センターの担当者がそれぞれの取り組みを紹介。発達障害専門外来いかわクリニック(大垣市)の井川典克院長(60)は、発達障害者にとってコロナ禍そのものより、親がずっと自宅にいることやこれまでと異なる指示、対応など、支援者の変化の方がストレスである実態を紹介し、本人が納得した上での支援や活動への参加が重要と説いた。

発達障害者の就労を支援するサステイナブル・サポート(岐阜市)の後藤千絵代表理事(41)は「発達障害や生きづらさを抱えた学生の就労は(コロナ禍で)今後ますます深刻化する」との懸念を示し、一人一人のペースに合わせた予防的支援を訴えた。

司会の堀田亮助教(33)は「発達障害のある学生の現状を、医療や就労など各側面から整理できた。しっかりと分析し、今後の支援に生かしたい」と話した。

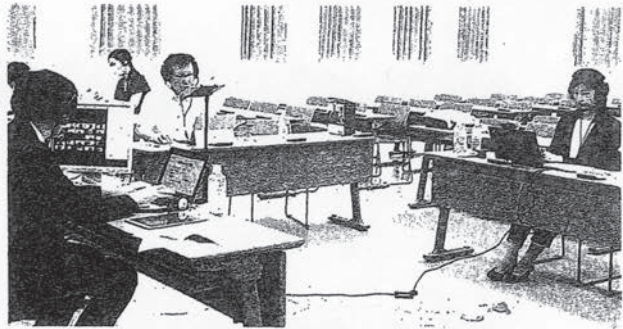
中日新聞  
2020.9.7 掲載  
川上講師

# 発達障害ある大学生 どう支援

コロナ下の生活変化 課題探る

発達障害のある大学生への支援を考えるウェブセミナー「COVID-19流行下で発達障害学生には何が起こっていたのか」(岐阜大主催)が6日開かれ、当事者の学生や各大学で学生支援に携わる職員など全国から約160人が聴講した。  
(形田怜央菜)

## 岐阜大主催ウェブセミナー 160人聴講



ウェブセミナーで参加者に向け説明する専門家ら＝岐阜市黒野の平成医療短大で

オンライン講義の普及など、コロナ禍で大学生の生活様式に大きな変化が起きている中、発達障害のある学生が抱える課題などを整理しようと企画した。この日は、岐阜市黒野の平成医療短大などに専門家が集まり、国の支援状況、学業、生活、就労の四つの観点から発表した。

生活の観点からは、発達障害者専門外来を設ける「いかわクリニック」(大垣市)の医師、井川典克さんが説明。主に十八歳以上の当事者からの相談として「(コロナ禍で)どうすればいいか誰も指示してあげない」などがあつたと紹介した。

一方で、遠隔での人とのやりとりについては「通学しなくて楽」「周りを気にしなくていい」といった前向きな意見が多かったという。井川さんは「多くの発達障害者にとって、事態の影響そのものよりも支援者の対応の変化の方が、受ける影響が大きいといえる」と指摘した。

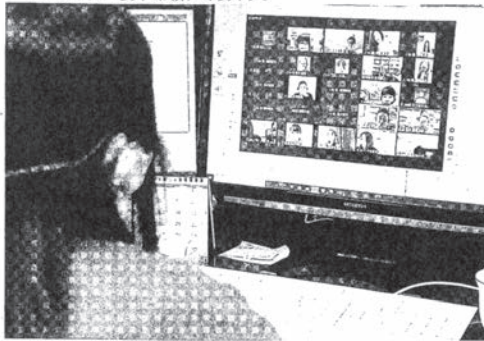
参加者からは「メールの整理が苦手な学生がいるが、情報発信の際に工夫する点は」などと質問があり、「一つのホームページに情報を集約する」「送信者を統一する」などの提案があつた。

岐阜新聞  
2020.11.13 掲載  
川上講師

## 医療や看護志す学生、オンライン共同授業

## 分野の壁越え 理解を深める

県内の医療系教育機関5校が参加したオンラインによる共同授業＝岐阜市柳戸、岐阜大



## 岐阜大など県内5校の500人参加

岐阜大と岐阜薬科大、岐阜女子短大、平成医療短大、岐阜明日歯科衛生士専門学校でそれぞれ専門職を目指す学生が参加した「多職種連携教育(IPE)」の共同授業が、オンラインで開催された。各校から計約500人が学んでいる分野を越えて医療、看護、介護への理解を深めた。

参加した学生が目指す職種は▽医師▽看護師▽歯科衛生士▽栄養士▽薬剤師▽理学療法士▽作業療法士▽視能訓練士の8職種。IPEは、それぞれ専門職を目指す学生に実践的なチーム医療を学んでもらおうと2012年度に始まった。毎年1校が集まってグループワークなど対面授業を行っていたが、今年は新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインで実施した。

学生たちは少人数のグループに分かれ、ビデオ会議システムを活用。脳梗塞などを患う70歳男性患者の在宅療養に向けた退院準備の打ち合わせとの設定で、それぞれ専門職の立場から、必要な治療や介護、サポートなどを話し合った。

各グループにオブザーバーとして参加した教員が「患者さんやご家族へ説明するときは、質問を促すなど双方向のやりとりを心がけて」などと指導する場面もあった。

共同授業を企画した岐阜大医学教育開発研究センターの川上ちひろ講師は「これほど多くの専門職を目指す学生が一堂に会するIPEは県内で唯一。今後も地域の専門職の育成に貢献していきたい」と話した。

(武藤直子)





岐阜大学  
医学教育開発研究センター(MEDC)  
今福 輪太郎 併任講師

岐阜大学  
医学教育開発研究センター(MEDC)  
西城 卓也 准教授

岐阜大学大学院医学系研究科「医療者教育学専攻修士課程」

## 医療者教育のエキスパートを育成する、 日本初・唯一の修士課程が誕生。

### 岐阜大学大学院医学系研究科 医療者教育学専攻修士課程

対象学生：医療系教育研究機関や医療機関などにおいて、  
医療者教育の実務経験を2年以上有する者  
(医師・看護師・薬剤師・歯科医師・理学療法士・作業療法士など)  
履修期間：2年間

令和2年4月、岐阜大学大学院医学系研究科に開設。医療系大学の教員や医療機関の指導医など、医療系学生や若手医療者の教育に携わる人が「教育方法」「評価方法」「カリキュラム開発」といった医療者教育の理論・方法を習得し、エキスパートを目指す課程。働きながら学べるよう遠隔授業を活用し、教員・学生ともに医療職種を超えてコミュニケーションを図りながら医療者教育について学び合えるカリキュラムです。国際的な学位「医療者教育学修士(MHPE)」の取得も叶います。

従来、医療系学生や若手医療者への教育は、主に医療者が各自の経験や持論をもとに行ってきました。しかし、時代とともに医療者教育の方法は多様化してきました。一方向の講義とは異なり、議論やグループワークを通して学ぶ「アクティブラーニング」は、その一例です。医療者へ教育を行う者には、医療の専門性に長けているだけでなく、「教育学」の知識が求められるようになり、海外では「医療者教育学」を学ぶ修士課程が続々と設置されています。

こうした世界的な潮流を受け、岐阜大学では令和2年4月、日本初の医療者教育学専攻修士課程を開設しました。平成13年には医療分野で国内初の全国共同利用施設「岐

阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)」を設置し、日本の医学教育を牽引してきた本学が、医療者教育のエキスパートの育成という新たな役割を担います。

学ぶ内容は、「教育」「評価」「カリキュラム開発」の3本柱から成る医療者教育の理論・方法論。これらを体系的に習得するとともに、所属機関の医療者教育を改善できる視野を養います。最大の特色は、多職種の学生が現場の多様な課題の解決に必要な職種間連携を、多職種の医療分野の教員から学べる体制。加えて、教育学や心理学・コミュニケーション学・経営学など非医療分野の知識を、専門教員が指導します。

国内にある本学で学ぶメリット

は、世界基準の教育理論を日本式に落とし込んで学べる点にあります。例えば、医学部で採用されている、世界標準の教育手法の一つ「PBLチュートリアル」。学生自身で問題を発見し、議論しながら解決方法を考える少人数型教育ですが、日本では活発な議論が起こらない場面が多々あります。その原因を、日本人の特性や文化、心理メカニズムなどから理解し、日本に合った形で採り入れる能力の獲得を図れるのです。修了後は、各自の所属機関でリーダーシップを発揮し、日本の医療者教育の質向上に貢献してほしい。さらには、すぐれた教育手法を創出して世界に発信してほしいと期待します。

岐阜大・鈴木教授  
あす最後の講義

医学教育、一般聴講可

岐阜大を3月末で退職する鈴木康之・医学教育開発研究センター教授による最終講義が22日午後5時半から、オンラインで行われる。「小児科から医学教育へ」がテーマで、一般の聴講も受け付けている。

最終講義では、鈴木教授が小児科医としての経験を

生かし、医療に従事する医療専門職の育成に当たってきた同センターでの活動を振り返る。参加無料だが事前の申し込みが必要。

同大ホームページから申し込みが可能。<https://www.gifu-u.ac.jp/> (小森孝美)

岐阜大医学教育開発研究センター  
セミナーとワークショップを開催

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、去る1月22日・23日の2日間にわたり、第78回医学教育セミナーとワークショップ(S&W)をオンライン(Zoom)で開催した。総勢297名の参加者・講師により、公募も含めた計8つのeワークショップ、eパネルディスカッション及びeセミナー(Special Webinar)を実施した。

eワークショップでは、レゴ®を用いた省察、多職種連携、臨地実習、教育哲学、身体診察、英語OSCEの指導方法と評価方法など多彩なテーマについて、eパネルディスカッションでは小児科専門医教育に関して活発に議論した。

また、eセミナー(Special Webinar)は、鈴木康之同センター教授の最終講義も兼ねて実施し、大学内外合わせて217名が聴講した。『小児科から医学教育へ』と題して、小児科医での経験から学んだ「全身を診る、家族を診る、社会を診る」という視点、専門分野の先天代謝異常症という稀少難病の研究での経験、医学教育の分野での取り組みなどについて講演した。

2020年度は医学教育開発研究センターが中心となり、岐阜大にわが国初の医療者教育専攻修士課程を設置。同課程にリンクする形でS&Wも年3回の開催に変更するとともに、報告書を取載した機関誌である『新しい医学教育の流れ』をオンライン化するなどの改革を図った。

新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われたが、2020年度に実施した3回のS&Wをすべてオンラインで滞りなく実施できたことは、withコロナ時代のS&W開催の一つの在り方を示すことができたといえる。

同センターでは、次年度も引き続き医学教育共同利用拠点として、わが国の医療者教育の普及・開発・向上につなげるために、「医学教育セミナーとワークショップ(S&W)」を企画・開催している。次回第79回S&Wは、5月21日(金)から23日(日)の3日間岐阜大で開催予定。



講演する鈴木教授



講演後に花束を受け取った鈴木教授

岐阜大学、医学教育  
セミナー＆ワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は1月22日・23日の2日間にわたり、第78回医学教育セミナーとワークショップ(S&W)をオンラインで開催した。総勢297名の参加者・講師により、公募も含めた計8つのeワークショップ、eパネルディスカッション及びeセミナーを実施した。

eワークショップでは、レゴ®を用いた省察、多職種連携、臨地実習、教育哲学、身体診察、英語OSCEの指導方法と評価方法など多彩なテーマについて、eパネルディスカッションでは小児科専門医教育について活発な議論がなされた。また、eセミナー(Special Webinar)は、同センターの鈴木康之教授の最終講義も兼ねて実施し、大学内外合わせて217名が聴講した。鈴木教授は「小児科から医学教育へ」と題し、小児科医での経験から学んだ「全身を診る、家族を診る、社会を診る」という視点、専門分野の先天代謝異常症という稀少難病の研究での経験、医学教育の分野での取り組み等について講演した。



講演終了後、花束を贈呈される鈴木教授

学専攻修士課程を設置し、それにリンクする形でS&Wも年3回の開催に変更するとともに、その報告書を取載した機関誌『新しい医学教育の流れ』をオンライン化するなどの改革を図った。同大は「新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われたが、2020年度に実施した3回のS&Wをすべてオンラインで滞りなく実施できたことは、ウィズコロナ時代のS&W開催の一つの在り方を示すことができたとも言える」としている。

文教速報  
2021.2.10 掲載  
鈴木教授

文教ニュース  
2021.2.15 掲載

# アソシエイト・フェローシップ

## 医療教育者としてより幅の広い学びを得るためのプログラム

MEDC には、アソシエイト制度とフェローシッププログラムを全国の医療者教育者向けに用意・提供している。これは 2015 年度から、医療者が教育者としてのキャリアを着実に積み重ねるために構築した支援体制である。

医療教育学には、①教育方法、②評価、③カリキュラム設計、④運営とリーダーシップ、⑤学術的活動といった基本領域がある。2000 年から実施している「医学教育セミナーとワークショップ」に、一定数参加され、幅広く学んだ方をアソシエイトに認定している。

また医療者教育を幅広く継続的に学べるプログラムがフェローシップ制度である。学習、評価、プログラム設計、運営、研究をトータルに学べる MEDC 医療教育トータルラーニングコース、通称“メドギフト”を提供している。ここではアソシエイトの単位とフェローシップの単位を合わせてフェローの認定を行って好評を博している。

### 参加者数の推移(2015-19 年度)

	2015	2016	2017	2018	2019	計(名)
モジュール 1 参加者	22	17	27	23	15	104
モジュール 2 参加者	23	32	24	22	4	105
モジュール 3 参加者	10	11	25	20	18	84
オンラインコース修了者	10	11	24	17	15	77
アソシエイト認定者	—	25	17	20	10	72
フェロー認定者	—	5	8	12	14	39

## 2020 年度の報告

2020 年度も引き続き全国の参加者に応募いただけたことは喜ばしい限りである。セミナーや学会での新たな交流をきっかけに、フェローシップに関心を寄せる方が増えたことは大変意義深い。

また、2020 年度は、これまで 3 つのモジュールに分けていた“メドギフト”の学習内容を統合し、1 タームでより集中して総合的に学べるコースへと再編成した。3 月 9 日～6 月 21 日までの約 4 か月間で教育方法や学習者評価、プログラム評価などの基本を、参加者自身の教育実践の振り返りや受講者同士のディスカッション、ワークショップ受講を通して学ぶ機会にし

### 参加者数(20 年度)

	2020	計(名)
メドギフト参加者 (20 年度より 1 ターム制)	16	16
オンラインコース修了者	15	92 <sup>※</sup>
アソシエイト認定者	15	87 <sup>※</sup>
フェロー認定者	13	52 <sup>※</sup>

※ 2015～20 年度までの合計

た。20 年度のワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、オンラインでの開催となった。動画教材を事前に視聴したうえで、オンラインコースでの学びと関連づけながら、自身の教育実践を振り返り、明日からの実践に向けた目標を明確にすることができた。オンライン上ではあるが、参加者同士が顔を合わせてディスカッションすることができ有意義な時間になったといえる。

## インターネットの活用

これまでMEDCでは大学院教育の新たなるツールとしてインターネットPBLを実施してきたが、その応用版として開講されたMEDC Online courseの中にアソシエイト・フェローシップのコースを組み込んでいる。21年度からは、医療者教育スターターキット、メドギフト(オンラインコース)、医療者教育学修士課程を1つのラーニングマネージメントシステム(LMS)であるMoodleにまとめ、より段階的、系統的なオンライン学習の構築を計画している。



Online courseへはMEDCホームページから  
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>



## 今後に向けて

下記の表が示すように、多職種の医療教育者が集い学ぶというMEDCの特色の一つが引き続き表現することができた。多職種の医療教育ネットワークの拡大と内容の益々の充実を図っていききたい。

職種別割合(2015-20年度)(%)

	医師	歯科 医師	看護師	薬剤師	理学/作業 療法士	他
フェロー	37	15	15	8	12	13
アソシエイト	43	13	13	7	7	17

(文責 今福輪太郎)

## コロナ禍の中でのオンライン化

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の難局を受けた1年となった。岐阜県においては、3月半ばから感染者が急増し、年度が開始した直後の4月10日には岐阜県下独自の「非常事態宣言」が発令された。それに引き続き、4月16日には全国を対象とした「緊急事態宣言」が発令されることとなり、その後も外出および様々な活動の制限を受ける1年となった。

そのような状況下、各分野の活動も大きな影響を受けることとなったが、いち早くオンラインでのコミュニケーションが可能な環境（Zoom®）を整備し、MEDCのスタッフ会議および教員会議をオンライン開催し連絡を密にすることで、様々な活動のオンライン化を実施した。

ここでは、この1年間における新型コロナウイルス感染症の影響にともなって実施した様々な活動のオンライン化について、その概要を報告する。

### ◆オンライン化に際して◆

新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で、人の移動や人と人の接触が制限されることとなり、対面で行っていた活動を実施することが困難となった。それらの活動をオンライン化するために以下のような準備および対応を行った。

#### 1. 利用したシステム

##### ➤ Microsoft Teams®

岐阜大学が管理するOffice365のアプリケーションの1つであるコラボレーションプラットフォームMicrosoft Teams®（以下Teams）を主に学生の授業に利用することとした。まずはMEDCの会議用のチームおよびチャンネルを作成し、4～5月のテレワーク中の議論の場として利用することで操作方法を修得、その後各授業への応用を試みた。

##### ➤ AIMS-Gifu

岐阜大学のICTを活用した学習支援システムである。もともと利用されていたシステムで医学部学生にも親和性が高かったため、医学部生に対する授業においてTeamsとともに利用した。

##### ➤ Microsoft Stream®

Teamsと同じく、Office365のアプリケーションの1つであるMicrosoft Stream®（以下Stream）は組織内のユーザーが動画を安全にアップロード、視聴、共有できるビデオ サービスであり、学生への講義などの動画教材の提供に利用した。

➤ **Moodle®**

オープンソースのLMS（学習管理システム）である。当初より医療者教育学修士課程におけるハイブリット学習への利用のため、システム構築を進めていたが、このような状況下において、より各e-ラーニングプログラム実施に有効活用された。

➤ **Zoom Meetings®**

Web会議システムであるZoom Meetings®（以下Zoom）のアカウント契約を4月より行い、授業やセミナーとワークショップをはじめ学内外の様々な会議、大学院生や修士学生の個人指導にも活用した。使用目的が多岐にわたるようになり、使用頻度も増えたため、10月よりアカウントを1つ増設し、また500名までの接続にも対応できるように整えた。

## 2. オンライン化に対応する環境づくり

➤ **オンライン化に必要な機材の配置およびデバイスの設定**

Web会議システムをスムーズに効率よく利用するために、Webカメラや、ヘッドセットおよびデュアルディスプレイを使用するためのモニターを各スタッフに配置した。

またMEDC共有のパソコンやIPadにはTeams やZoomなどのアプリを設定して、利用したいときに即時に使えるように整えた。

➤ **専用のスタジオの設置**

授業やセミナー、ワークショップなどを開催するための専用の部屋を設け、オンライン開催に適応した環境を整えた。

➤ **オンライン操作担当スタッフ**

MEDCスタッフ内でオンライン操作担当をおいた。担当スタッフ中心に日々のシステムの更新や、各種利用マニュアルの作成、情報交換を行うことで、すべてのオンラインの活動がスムーズに実施できるようにした。

### ◆オンライン化となった活動◆

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で下記の活動がオンライン化された。なお活動内容のオンライン化の詳細は、各項目ページで報告する。

#### 1 医学教育セミナーとワークショップ

年度内に予定されていた全ての医学教育セミナーとワークショップ（第76回、77回、78回）をオンライン開催とした。

開催にあたってZoomを利用した。第76回は1つのアカウントで実施したが、オンラインでの開催に関する環境も整ってきたことで、77回、78回は2つのアカウントを使用して、より充実したプログラムを提供することが可能になった。また接続人数を500名までに増設したことで、参加人数の制限もなくなり、定員を増加させることもできるようになった。

## 2 教育活動

MEDCが担当する医学部学生の教育活動において、模擬患者参加型実習、地域体験実習、医師・患者関係、臨床推論、医療英語、IPEの授業や実習を全部または一部オンライン化して実施した。講義は収録した動画をStreamを利用してオンデマンド配信あるいは、Teams、Zoomを利用してライブで行った。さらに、AIMS-GifuやTeamsを使用して課題提示や提出を行ったり、Teamsを使用してグループ学習を実施した。また模擬患者参加型実習や地域体験実習においては、市民のかたにZoomを利用して参加協力をしていただくことで、対面での実習のようにはいかないこともあったが、オンラインならではの学びを学生に促すことができた。さらに、遠隔地の講師を授業に積極的に招くなど、対面ではできないことを活動に取り入れた。

また医療者教育修士課程においても、Teams、Moodle、Zoom、それぞれの利点を利用して、学生と教員の双方向学習および学生は共に学ぶことができる環境を作る工夫を行った。

### ◆「Withコロナ」のオンライン化を見据えて◆

年度初めは、対面による活動制限がある状況下での代替手段という位置づけでオンライン化を開始した。しかしながら、様々な経験を通して、また複数のオンラインシステムを新たに取り入れることで、オンラインならではの多くの利点や教育効果も見出すことができるようになった。年度後半では、単なる代替手段ではなく、対面活動制限が緩くなっていく「Withコロナ」の時代におけるオンラインの取り入れ方も見据えながら、オンライン化を進めた。

(文責 早川佳穂)

**Seminar  
&  
Workshop**





## 医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター (MEDC) では、全国共同利用拠点として我が国の医学教育の普及・開発・向上に寄与すべく、「医学教育セミナーとワークショップ (S&W)」を原則年 4 回、うち 2 回は岐阜で主催し、2 回は全国の医療系大学と共催してきた。医学教育が急速に進歩する中で、ニーズの高いテーマを設定した FD・SD を行い、毎回全国各地から医学部教員、医学生、研修病院指導医、模擬患者、歯学、薬学、看護学、事務職員などの医療関係者が参加している。

2020 年度は日本初の医療者教育学専攻修士課程が岐阜大学に設置される年でもあり、それにリンクする形で本 S&W 開催を年 3 回とし、またその報告書を収載したジャーナルである“新しい医学教育の流れ”をオンライン化 (MEDC 機関誌「新しい医学教育の流れ」の項参照)<sup>1)</sup>するなどの改変を企画した。ところが COVID-19 によるコロナ禍での開催を余儀なくされ、第 21 回国公立大学医学部・歯学部 教務事務職員研修 (教務事務研修) との共催予定であった第 76 回 S&W<sup>2)3)</sup>を教務事務研修の中止に伴い、急遽 S&W 単独でのオンライン (Zoom) 開催 (2020 年 5 月 23 日 (土)・24 日 (日) ; e ワークショップ 3 つ、e ケースカンファレンス、2 つのランチオン webinar ; 総勢 91 名の参加者・講師) とした。他大学との共催を企画していた第 77 回 S&W<sup>4)5)</sup>も MEDC 単独でのオンライン (Zoom) 開催 (2020 年 10 月 2 日 (金)・4 日 (日) ; 8 つの e ワークショップ ; 総勢 187 名の参加者・講師) として実施した。さらに 2021 年 1 月 22 日 (金)・23 日 (土) に岐阜大学サテライトキャンパスにおいて開催予定であった第 78 回 S&W<sup>6)</sup>も新型コロナ第 3 波のあおりを受け、オンライン (Zoom) 開催となったが、総勢 297 名の参加者・講師により、公募も含めた計 8 つの e ワークショップならびに e パネルディスカッションと e セミナー (鈴木教授最終講義を兼ねた Special Webinar) それぞれ 1 つを実施した。以上、2020 年度に企画した 3 回の S&W をすべてオンライン開催にて滞りなく実施できたことは、With コロナ時代の S&W 開催の在り方の一つを示すことができたとと言える<sup>7)</sup>。

表 2020 年度開催医学教育セミナーとワークショップ

医学教育セミナーとワークショップ	開催日	開催形態	参加人数
第 76 回 医学教育セミナーとワークショップ 【併催: 第 21 回国公立大学医学部・歯学部 教務事務職員研修】	2020 年 5 月 23 日 (土)~24 日 (日) 【事務研修 5/22~24】	Zoom によるオンライン開催 (併催の教務事務研修は中止)	91 名 【中止】
第 77 回 医学教育セミナーとワークショップ	10 月 2 日 (金)~4 日 (日)	Zoom によるオンライン開催	187 名
第 78 回 医学教育セミナーとワークショップ	2021 年 1 月 22 日 (金)~23 日 (土)	Zoom によるオンライン開催	297 名

S&W 開催にあたり、ご協力いただいた講師の先生方、またご参加いただいた多くの皆様

に厚く御礼申し上げます。

なお、全国利用拠点である MEDC はもう一つの取り組みとしてアソシエイト/フェロシップ認定を実施し（フェロシップの項参照）、その認定賞授与式は原則 S&W 開催に合わせて行っている。

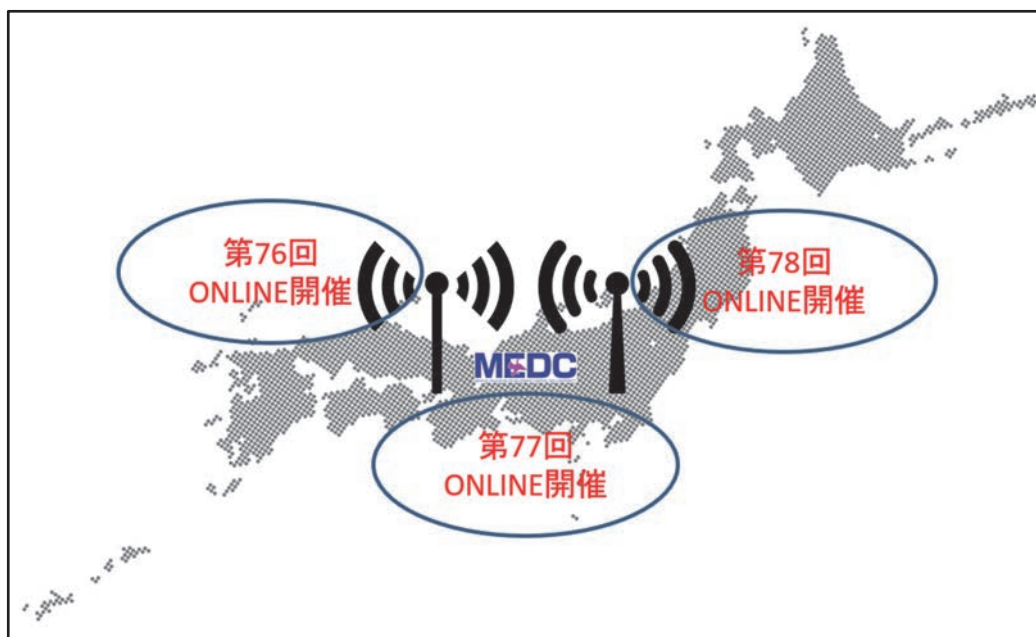


図 2020 年度医学教育セミナーとワークショップ開催

#### 参考

- 1) <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/oj/onlinejournal.html>
- 2) 川上ちひろ：ニュース. 第 76 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 51(4) : 462-463, 2020 年
- 3) 第 76 回 e 医学教育セミナーとワークショップ報告. 新しい医学教育の流れ Online Journal, 20(2) : 92-130, 2020 年
- 4) 今福輪太郎：ニュース. 第 77 回 e 医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 51(5) : 620-621, 2020 年
- 5) 第 77 回 e 医学教育セミナーとワークショップ報告. 新しい医学教育の流れ Online Journal, 20(3) : 140-192, 2021 年
- 6) 第 78 回 e 医学教育セミナーとワークショップ報告. 新しい医学教育の流れ Online Journal, 20(4), 2021 年 (準備中)
- 7) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 鈴木康之ら：医学教育セミナーとワークショップのオンラインシステムを用いた開催設計の試み. 医学教育 51(3) : 342-343, 2020 年

(文責 丹羽雅之)

# 第76回 医学教育セミナーとワークショップ



2020年 5月 23日(土) ~ 24日(日)

2020  
春

eケースカンファレンス 5月23日(土)9:00-11:00

**ML** 学生支援の「お悩み相談室」

企画：川上ちひろ (MEDC)、堀田 亮 (岐阜大学)、船越高樹 (国立高等専門学校機構)

ランチョンWebinar-1 5月23日(土)11:30-13:00

**ML** 教学IRとデータマネジメント ~組織間を繋ぐデータ作りを目指して~

企画：恒川幸司 (MEDC)、浅田義和 (自治医科大学)、江端弘樹 (帝京大学)

eWS-1 5月23日(土)13:30-15:30

**TL** EBM教育とナラティブ ~“患者の語り”から問題を定式化しよう

企画：中山健夫 (京都大学)、佐藤(佐久間)りか・射場典子・別府宏園 (認定NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン)、青木昭子・瀬戸山陽子 (東京医科大学)

eWS-2 5月23日(土)16:00-18:00 **FELLOWSHIP**

**TL** 医療者教育を表現する -学びと成長を促すために-

企画：今福輪太郎・恒川幸司・川上ちひろ・早川佳穂・西城卓也 (MEDC)、猪田宏美 (岡山大学)

eWS-3 5月24日(日)9:00-11:00

**TL** しくじり医学教育者 ~教育実践の失敗から学ぶ~

企画：清水郁夫 (信州大学)、鋪野紀好 (千葉大学)、浅田義和 (自治医科大学)

ランチョンWebinar-2 5月24日(日)11:30-13:00

**ML** COVID-19パンデミック、医療者教育、そして教員養成

話題提供：清水郁夫 (信州大学)、座長：西城卓也 (MEDC)

## 参加登録方法

参加費  
無料

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。  
「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2020年 5月 10日(日)**

ワークショップ運営上、各々定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。  
なお、当日参加は受け付けません。  
今回は、「ZOOM (Web会議システム)」を利用します。  
今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。  
今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。

第77回  
関西医大

2020/10/3-4

第78回  
岐阜

2021/1/22-23

第79回  
岐阜

第22回教務事務職員研修  
2021/5

併催

**MEDC**  
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468  
〒501-1194 岐阜市柳井1番1  
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索



## ケースカンファレンス 学生支援の「お悩み相談室」

ML

企画：川上ちひろ（MEDC）、堀田 亮（岐阜大学）、船越高樹（国立高等専門学校機構）

概要：授業・実習など教育の場で学生を支援するときに、難しさを感じたことはありませんか？「どうやって接したらいいのだろう？」「授業資料をどう作ったらいいのだろう？」「法律や規則はあるのか？」など、いろいろなことで悩まれると思います。このWSでは、多様なニーズがある医療系学部の学生支援に関する質問を事前に受け付け、当日はどのような支援が必要なのか参加者の皆さんと一緒に考えます。

対象：学生支援に携わっている教職員、この内容に興味がある方

定員：20名

## ランチョンWebinar-1 教学IRとデータマネジメント ～組織間を繋ぐデータ作りを目指して～

ML

企画：恒川幸司（MEDC）、浅田義和（自治医科大学）、江端弘樹（帝京大学）

概要：分野別評価の普及によって、各大学の医学部には近年、教学IR（Institutional Research）部門が設立され、データを基にした医学教育の改革が実施されつつある。しかしながら、実際にIR部門がもたらす教学データはIRの実践には不向きな場合が多く、取り扱いに難渋しがちである。そこで、本セミナーでは、教学IRとデータマネジメントに関して、基本的な話題を提供しつつ、どのようなデータマネジメントが教育改善に資するのか、またデータを保有する教務系職員との関係性について考えてみたい。

対象：医療系教務事務職員・IR（Institutional Research）を業務とする教員・職員

定員：20名



## WS-1 EBM教育とナラティブ ～“患者の語り”から問題を定式化しよう

TL

企画：中山健夫（京都大学）、佐藤（佐久間）りか・射場典子・別府宏圀（認定NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン）、青木昭子・瀬戸山陽子（東京医科大学）

概要：近年医療系モデル・コア・カリキュラムにおいてEBM教育の重要性がうたわれていますが、これまではEBMの5ステップのうちのステップ2「情報収集（文献検索）」とステップ3「情報の批判的吟味」という技術面の指導に力点が置かれがちで、本来臨床で最も重要なステップ1「問題の定式化」、ステップ4「情報の患者への適用」については有効な教授法が確立されていません。長年“患者の語り”の収集とデータベース化を進めてきたDIPEX-Japanでは、オンライン動画を用いて患者の価値観や期待を理解した上で問題の定式化や患者への適用を行うことを学修目標とした実習プログラムの開発に取り組んでいます。ワークショップでは、実際のプログラムの一部を体験していただき、患者主体のEBM教育についてディスカッションを行います。WEB開催のため反転授業の形をとり、参加者には事前アンケートと課題予習をお願いしますので、ご協力ください。

対象：医療系学生に対する、もしくは医療者の卒後研修としてのEBM教育に関心を持つ人

定員：20名



## WS-2 医療者教育を表現する – 学びと成長を促すために –

FELLOWSHIP

TL

企画：今福輪太郎・恒川幸司・川上ちひろ・早川佳穂・西城卓也（MEDC）、猪田宏美（岡山大学）

概要：学習者が受動的から能動的に、依存的から主体的になるためには、教育者は何ができるでしょうか。長期的な観点から医療者としての学習者の「成長」を促すためには何ができるでしょうか。とく、「研修生のやる気を出させることまで指導者の仕事なのか」「積極性のない学生は何をしても響かない」などと、教育者の視点のみで教育を議論しがちです。そのようなパラダイムから脱却するには、どうすればいいでしょうか。本WSでは、参加者がこれまでの教育実践や学習経験のエピソードを持ち寄りながら、主体的・対話的で深い学びを引き出す仕掛け・評価・成長を促す支援について考えます。

対象：フェローシッププログラム メドギフト2020参加者限定（一般の参加者は受け付けておりませんのでご了承ください）



## WS-3 しじり医学教育者 ～教育実践の失敗から学ぶ～

TL

企画：清水郁夫（信州大学）、鋪野紀好（千葉大学）、浅田義和（自治医科大学）

概要：医療者教育において、学習者が「失敗から学ぶ」ことの重要性が近年注目されております。しかし、それは教育者にとっても同じではないでしょうか。医学教育者は日々さまざまな教育実践に取り組んでいますが、全てが上手くいくわけではありません。重要なのは、そのような失敗には必ず原因があるということです。原因を分析して振り返り、次につなげることで、よりよい教育が行えるようになるはずです。本ワークショップでは、そのような教育実践の失敗すなわち「しじり」事例の振り返りを行えるようになることを目指します。典型的なしじり事例をグループワークで分析し、振り返りを通して、医療者教育において起こりうる失敗、教育実践の振り返り手順とその注意点等を共有することを目指したいと思います。

対象：医療者教育に携わっている方。職種、経験の有無は問いません。

定員：20名

## ランチョンWebinar-2 COVID-19パンデミック、医療者教育、そして教員養成

ML

話題提供：清水郁夫（信州大学）、座長：西城卓也（MEDC）

概要：COVID-19パンデミックをうけ、世界の教育が大きな変革のうねりに飲み込まれています。医療系大学においては、elearningが導入されたり、大学のシステムもすさまじいスピードで見直されています。elearning活用、従来の私たちの教育はどうだったのか？これから我々教育者は何をすべきで、何をすべきではないのか？次々に湧き上がる問いは、教員のパラダイムにゆさぶりをかけています。今回は信州大学の取り組みをトリガーに、医療者教育における教員養成についてオープンな意見交換を行います。

対象：医療者教育に携わっている方。この話題に興味がある方。

定員：20名

# 第77回 医学教育セミナーとワークショップ



2020年 10月 2日(金) ~ 4日(日)

2020  
秋

eWS-1 10月2日(金)13:00-15:00

**TL** 模擬患者オンライン大交流勉強会

企画：藤崎和彦・川上ちひろ・早川佳穂 (MEDC)

eWS-2 10月3日(土)9:00-11:00

**A** 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう

企画：園井教裕 (岡山西大寺病院)、今福輪太郎 (MEDC)、春田淳志 (慶應義塾大学)  
後藤亮平 (筑波大学)

eWS-3 10月3日(土)12:30-14:30

**TL** 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

企画：武田裕子 (順天堂大学)、岩田一成 (聖心女子大学)

eWS-4 10月3日(土)15:00-17:00

**A** 動画・音声付臨床問題&eラーニング教材のつくりかた

企画：松山 泰・浅田義和・岡崎仁昭・石川鎮清・川平 洋 (自治医科大学)

eWS-5 10月4日(日)9:00-11:00

**A** Post-CC OSCE の大学独自課題を作成しよう

企画：岡崎史子 (東京慈恵会医科大学)、石川鎮清 (自治医科大学)  
原田芳巳 (東京医科大学)

eWS-6 10月4日(日)10:00-12:00

**TL** エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育

～何をどのように教えればいいのか？～

企画：菊川 誠・金澤剛志 (九州大学)、橋本忠幸 (橋本市民病院)  
岡村知直・小杉俊介 (麻生飯塚病院)

eWS-7 10月4日(日)12:30-14:30

**CD** 卒前教育におけるマインドフルネスプログラム

企画：西屋克己・西垣悦代 (関西医科大学)、谷口純一 (熊本大学病院)  
三好智子 (岡山大学)、土屋静馬 (昭和大学)

eWS-8 10月4日(日)15:00-17:00

**ML** IR活動の失敗と成功の共有 ~第『2.5』回医療系IRミーティング

企画：恒川幸司 (MEDC)、中村真理子 (東京慈恵会医科大学)、岡田聡志 (千葉大学)  
浅田義和 (自治医科大学)、孤田孝行 (東京医科大学)、唐牛祐輔 (関西医科大学)

申込締切 **2020年 9月22日(祝)**

定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。  
なお、当日参加は受け付けません。「ZOOM (Web会議システム)」を利用します。  
今後の改善の参考にするため、録画いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

第78回  
岐阜  
2021/1/22-23

第79回  
岐阜  
第22回教務事務職員研修  
2021/5/21-23

第80回  
聖隷浜松  
2021/秋

※今後の社会情勢によっては、開催方法や会場の変更があるかもしれません



医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468  
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1  
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索

e

## WS-1 模擬患者オンライン大交流勉強会

TL

企画： 藤崎和彦・川上ちひろ・早川佳穂（MEDC）

概要： 模擬患者大交流勉強会は、これまで岐阜、東京、徳島、札幌、広島、千葉、沖縄、博多、埼玉、香川、兵庫、岡山、信州と全国各地で行われてきました。今回は新型コロナウイルス感染症への対応のため、初のオンライン交流会を開催します。模擬患者参加型教育は発展し続け、医療者教育においてさまざまな場で模擬患者が活躍しています。さらに、医学科においては共用試験実施評価機構のPost-CC OSCEがコロナの影響で遅れているものの正式実施目前となり、ますます模擬患者への需要が高まってきている状況です。従来の医学、歯学、薬学だけではなく、看護やリハビリ教育においてもコアカリキュラムに基づく教育が議論されるようになり、コミュニケーション教育も一層の広がりが求められるような時代になってきました。またwithコロナ・afterコロナで、オンライン診療が取り入れられるであろう医療の未来において、模擬患者さんの活動もまた幅が広がってくるのではないのでしょうか。みなさん、このような時代だからこそ、オンラインを通じて交流を深めましょう。

事前課題： 日常の模擬患者活動の中で、困っていることや悩んでいることなど、またオンラインでの活動などに関して、話し合いたい内容を考えてきてください。

対象： 模擬患者参加型教育にかかわる模擬患者、教員、指導者、学生、研修医、医療スタッフ

定員：60名

e

## WS-2 多職種連携を学ぶ学生の評価を考えよう

A

企画： 園井教裕（岡山西大寺病院）、今福輪太郎（MEDC）、春田淳志（慶應義塾大学）、後藤亮平（筑波大学）

概要： 超高齢社会となった日本は、医療や介護を含む地域包括ケアの場で多職種連携が強く求められ、卒前教育の段階から円滑な多職種連携が実践できる人材育成は急務である。一方で、多職種連携を学ぶ学生への評価は360度評価などあるが、評価者の主観による評価になりやすいなど課題は多い。こういった課題は学生に対する評価者のフィードバックを困難にしていることが想定される。そこで、本ワークショップでは卒前教育の高学年を対象とした多職種連携教育実習に関するシナリオに基づいた学生を評価するワークを通じて、多職種連携の場で活躍出来る人材育成に寄与するための評価方法について、考えを深めていきたい。その結果、多職種連携教育における学生への評価を見直すきっかけとなり、卒前の多職種連携教育の充実化に繋がると考える。

対象： 多職種連携を学ぶ学生の評価に興味がある方

定員：20名

e

## WS-3 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

TL

企画： 武田裕子（順天堂大学）、岩田一成（聖心女子大学）

概要： 本WSでは、外国人患者さんにもわかりやすい「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションを体験して頂きます。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災をきっかけに注目され広まりました。一文を短く、オノマトペを使わないなど、ちょっとしたコツで話せるようになります。今や、日本に住む在留外国人は300万人近くに上りますが、言葉の壁は医療機関へのアクセスを困難にしています。外国人診療＝英語と考えられがちですが、実際は「やさしい日本語」なら理解できる方は8割を超えます（英語は4割程度）。「やさしい日本語」は、また、高齢者や障害のある方、子どもたちなど、言葉の理解や聞こえに不安のある方々にも伝わりやすくできています。医療系学生のコミュニケーション力向上と共に、困難を抱える方々への理解を深めるきっかけにもなります。オンラインでの開催のため制約がありますが、実際に日本語を母語としない方とのロールプレイも行う予定です。

対象： 医療系学部学生・教員をはじめ、外国人診療に関わる可能性のある方、コミュニケーション教育・模擬患者養成を行っている方・模擬患者ボランティアの方

定員：20名

e

## WS-4 動画・音声付臨床問題&amp;eラーニング教材の作りかた

A

企画： 松山 泰・浅田義和・岡崎仁昭・石川鎮清・川平 洋（自治医科大学）

概要： 2015年の厚労省医師国家試験改善検討部会において、国試にコンピュータ制を導入し、静止画のみならず、動画や音声を活用した臨場感の高い臨床問題を出題する将来構想が議論されました。動画や音声を活用した臨床問題は、工夫次第で実技試験で測定される能力もある程度まで評価できます。何よりも会場に多数の物品を持ち込んだり人員を配置したりする負担を回避できます。また、問題を基盤としたeラーニング教材は、臨床実習の補完や代替になる学習コンテンツとなり得ます。今回のCOVID-19は「三密」が生じやすい実技試験や臨床実習の脆弱さを知らしめました。パンデミックに限らず今後起こり得る不測の事態に向けて、代替となる試験方法や学習コンテンツを準備する必要があります。このワークショップでは皆様と一緒に動画・音声付臨床問題を作成します。また問題をeラーニング教材へと発展させるノウハウを伝授します。

対象： 医歯薬・看護学等の卒前・卒後教育で試験問題作成に携わっている方

定員：18名

e

## WS-5 Post-CC OSCE の大学独自課題を作成しよう

A

企画： 岡崎史子（東京慈恵会医科大学）、石川鎮清（自治医科大学）、原田芳巳（東京医科大学）

概要： 共用試験実施評価機構のPost-CC OSCEの課題では最も重要で基本的な行為として、医療面接、身体診察、臨床推論、プレゼンテーション等を評価するための課題を作成しています。しかし、そもそも臨床実習後OSCEをどのように設計するのがよいか他大学の現状を知りたい、臨床実習後OSCEで機構で測る能力以外を測定したいがよいアイデアがない、課題を他大学と共有したい、コロナ時代に実施可能で卒業時の評価として妥当な課題の案はないのか？など様々なニーズが聞かれます。課題を作成する労力は相当なもので、討論しながら課題を作成し、共有することができれば大学の教育資源がよりよく活用されると考えこのWSを実施します。

対象： Post-CC OSCEにおいて、大学独自課題の作成に苦慮されている教員の方々

定員：35名

e

**WS-6 エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育**

～何をどのように教えればいいのか？～

TL

企画： 菊川 誠・金澤剛志（九州大学）、橋本忠幸（橋本市市民病院）、岡村知直・小杉俊介（麻生飯塚病院）

概要： 日本の卒前医学教育において、模擬面接を始めとしたコミュニケーション教育が定着してから久しい。これについては各所で改善の努力が見られ、Breaking Bad News等のより高度な面接の教育も一部では始まっている。一方で、卒後のコミュニケーション教育については各臨床研修病院に任せられているのが現状であり、一部の先進的なコミュニケーション教育を行っている施設以外では、多くの指導医たちは自らの経験を頼りにコミュニケーションの教育を行っているものと推察される。ヨーロッパ各国では全ての臨床教育に携わる医療職が、コミュニケーション教育の方略について学ぶ事が一般的に行われており、各医療者養成機関や団体がワークショップなどを開催している。これらのコースで紹介されているEvidenceに基づいた臨床コミュニケーションの教育法について、日本の伝統文化を考慮し臨床現場で応用できる形にしたものを、workshopを通じてご紹介し、実際にご自身の環境でどのように応用できるか樹上計画を立てて頂く。

なお昨今の状況を鑑み、遠隔での教育の行い方についてのTipsもご紹介する予定である。

対象： コミュニケーションを指導する立場にある医療従事者・医療系教員

定員：30名

e

**WS-7 卒前教育におけるマインドフルネスプログラム**

CD

企画： 西屋克己・西垣悦代（関西医科大学）、谷口純一（熊本大学病院）、三好智子（岡山大学）、土屋静馬（昭和大学）

概要： マインドフルネスプログラムが、医師の感情疲労の症状を改善したと報告され、2017年の医学教育セミナーとワークショップで医療現場におけるマインドフルネスが紹介されました。2019年には「マインドフルネスの理論と実践～マインドフルになろう！～」と題して、2日間のワークショップを通して医療や教育など様々な角度からマインドフルネスを学びました。近年、教育現場において学生自身のストレスマネジメントを目的として、マインドフルネスプログラムを取り入れられ始められています。現在のコロナ禍の中で、学生自身のストレスをコントロールしレジリエンスを高めていくことは非常に重要なことです。今回は学生教育にフォーカスをあて、マインドフルネスの基本を学び、各大学の教育実践報告、総合討論を通して卒前教育におけるマインドフルネスプログラムの実践について議論していきます。

対象： 医療者教育におけるマインドフルネスに興味のある教員等

定員：15名

e

**WS-8 IR活動の失敗と成功の共有 ～第『2.5』回医療系IRミーティング**

ML

企画： 恒川幸司（MEDC）、中村真理子（東京慈恵会医科大学）、岡田聡志（千葉大学）、浅田義和（自治医科大学）  
菟田孝行（東京医科大学）、唐牛祐輔（関西医科大学）

概要： 分野別評価が実施されるに従い、ここ数年にて医療系学部には次々とInstitutional Research（IR）部門が立ち上がり、各大学のIR実践が報告されてきている。企画者らは数年前から医療系IRに関するワークショップを実施しているが、IR実践の進捗に従って、参加者のニーズがより具体的で実際的なことを実感している。そこで、今回は各大学がIRを実践していく中で、どのような阻害要因・促進要因があったか、特に『Post コロナ/With コロナの時代のIR』という今日的な話題を絡めつつ、その解決策を考えたい。また、IR実践の結果として教育改善が行われたか、あるいは行われなかったか、またその意思決定の要因は何だったのか、というInstitutional Effectiveness（IE）の領域まで踏み込んで議論したい。

対象： IR（Institutional Research）を業務とする教員・職員、IRに興味のある方

定員：30名

**参加登録方法**

**事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。**  
**「MEDC」で簡単検索できます。**

**締め切り：2020年 9月 22日(祝)**

**参加費：** 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円がかかります)

参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。

参加費は、当日配布します資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

**開催方法：** ZOOM（Web会議システム）

今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。

ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。



# 第78回 医学教育セミナーとワークショップ



2021年 1月22日(金) ~ 23日(土)

Special Webinar 1月22日(金)17:30-18:30

**ML** **小児科から医学教育へ**

講師：鈴木康之 (MEDC)



eパネLDイカッション 1月22日(金)15:00-17:00

**ML** **専門医教育の充実を目指して**

— 小児科専門医を叩き台にして考える —

企画：鈴木康之 (MEDC)、西屋克己 (関西医科大学)、高村昭輝 (金沢医科大学)

2021  
冬

eWS-1 1月22日(金)12:00-14:00

**TL** **レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用して、手も頭も動かす省察**

企画：田中淳一 (東北大学病院)

eWS-2 1月23日(土)9:00-11:00、12:00-14:00

**CD** **多職種連携を円滑に進めるためのコンテキスト(文脈)を理解するにはどうしたらよいか？**

企画：春田淳志 (慶應義塾大学)、木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵 (筑波大学)、林 幹雄 (関西医科大学)

eWS-3 1月23日(土)9:30-11:30

**ML** **臨地実習において教育上の調整が必要な学生への支援を考えよう**

企画：飯岡由紀子 (埼玉県立大学)、松岡千代 (甲南女子大学)、遠藤和子 (山形県立保健医療大学)、小川純子 (淑徳大学)

eWS-4 1月23日(土)13:00-15:00

**ML** **あなたはなぜ教育するのか？—あなたの教育哲学を考える—**

企画：井上和興 (鳥取大学)、種村文孝 (京都大学)、角南直美 (鳥取大学)、及川沙耶佳 (京都大学・鳥取大学)、孫 大輔 (鳥取大学)

eWS-5 1月23日(土)15:30-17:30

**TL** **学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察 — 5つの教育実践例**

企画：朝比奈真由美・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井 大 (千葉大学)

eWS-6 1月23日(土)16:00-18:00

**A** **英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！**

企画：押味貴之・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Raina Abad・Katrina Fanjul (国際医療福祉大学)

1月22日(金)			
12:00-14:00	eWS-1		
15:00-17:00	eパネルディスカッション		
17:30-18:30	Special Webinar		
1月23日(土)			
9:00-11:00	eWS-2	9:30-11:30	eWS-3
12:00-14:00		13:00-15:00	eWS-4
15:30-17:30	eWS-5	16:00-18:00	eWS-6

※ 今後の社会情勢によっては、開催方法や会場の変更があるかもしれません



医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468  
〒501-1194 岐阜市柳町1番1  
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDDC

検索

e

## Special Webinar 小児科から医学教育へ

ML

講師：鈴木康之（MEDC）

概要：めぐり合わせというか、私の医師人生は20年刻みで大きな節目を迎えてきた。1980年に医学部を卒業して小児科医となり、2000年に医学教育の分野に飛び込み、2020年度で退職を迎えようとしている。振り返ってみると自らの決断というよりは、時々周囲の人たちの助けによって道が拓けた感じが強い。小児科で学べた事は「全身を診る、家族を診る、社会を診る」という視点であった。小児科時代は医学研究に没頭した20年間でもあった。専門分野は先天代謝異常症という稀少難病であったが、全身に障害が及び、倫理的・家族的・社会的に多くの課題を考えさせられた。こうした経験は医学教育の仕事をする上で、かけがえのない財産となった。医学教育の分野では全国共同利用施設というユニークな活動の場を与えられ、仲間にも恵まれ、伸び伸びと活動をさせていただいた。本セミナーでは深い感謝をこめて私の経験をお伝えしたい。

e

## パネルディスカッション 専門医教育の充実を目指して

ML

－小児科専門医を叩き台にして考える－

企画：鈴木康之（MEDC）、西屋克己（関西医科大学）、高村昭輝（金沢医科大学）

概要：新たな専門医制度が発足して3年が経過しようとしています。専門医教育の実質的な充実に向けた取組は未だ十分ではありません。卒前教育ではアウトカム基盤型教育、臨床現場での指導と評価、教員養成などの重要性が共通認識として広まりつつあり、初期臨床研修も今年度の改訂により、こうした考え方が導入されつつありますが、専門研修レベルでは領域毎の裁量に任される部分が大きく、共通認識ができていない状況です。このパネルディスカッションは、日本小児科学会が取り組んできたアウトカム基盤型教育、臨床現場での指導と評価、指導育成の取組を紹介し、多くの基本領域およびサブスペシャルティ領域の皆さんと意見交換をしたいと思っております。

対象：専門医教育に関わる組織、指導者、専攻医、事務担当者

e

## WS-1 レゴ®シリアスプレイ®の手法を活用して、手も頭も動かす省察

TL

企画：田中淳一（東北大学病院）

概要：医療の質の向上のために「省察」は、生涯にわたって、自律的に学び続ける上で、非常に重要です。省察を行う際には、考えの可視化が必要になり、通常は言語化して、他者との対話を通して、振り返っていきます。しかし、自らの考えが頭にイメージできても、言語化することが難しい場合は、十分に省察できない可能性があります。そこで、今回、考えをより可視化できるレゴ®シリアスプレイ®という技法を用いた省察を体験いただけます。自分の考えをブロックの組み合わせで表現し、自らも他者からも視点の幅が広がり、言語での表現の限界を感じていただき、今後の自身、または周囲への省察を行う際の一助になれば幸いです。なお、WSはオンラインで行われるため、WS用の物品を送迎いたします。その受け取り・返却ができることとWebカメラの使用が必須になりますことをご承知おください。

対象：「医療者教育」や「省察」に興味のある方

定員：16名

e

## WS-2 多職種連携を円滑に進めるためのコンテキスト（文脈）を理解するにはどうしたらよいか？

CD

企画：春田淳志（慶應義塾大学）、木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵（筑波大学）、林 幹雄（関西医科大学）

概要：教育や臨床現場で働き続ける教員や保健医療福祉の専門家は、意識・無意識に限らず思考が固定化される。その弊害を打破するには、移行行く社会構造や言動の背景にある関係性、そこに潜む権力、職種が抱える価値観などのコンテキスト（文脈）を理解することが求められる。この理解を進めることで、多職種連携で顕在化するコンフリクトを最適に扱うことができる。また昨今の複雑な問題を整理するためにも、大学の教員や保健医療福祉専門職は異なる価値観を持った他者との対話が求められる。このワークショップの目的は、人類学者を含む多職種とともに、保健医療福祉の現場を重層・複層的に張り巡らされた文脈を通じて理解することにある。多職種カンファレンスのビデオ観察学習、ホットシーティングなどのワークを通じて、専門職がゆえに互いに理解しづらくなった文脈をどのように捉えていくのか、この課題に参加者全員で取り組んでいきたい。

対象：全ての大学の教員や保健医療福祉専門職

定員：25名

e

## WS-3 臨地実習において教育上の調整が必要な学生への支援を考えよう

ML

企画：飯岡由紀子（埼玉県立大学）、松岡千代（甲南女子大学）、遠藤和子（山形県立保健医療大学）、小川純子（淑徳大学）

概要：障害者差別解消法の施行により、合理的配慮の体制は整備されてきました。医療専門職教育には臨地実習が必須科目であり、実習ではケア対象者・家族の安全を確保しながらも教育の質を保证する必要があります。診断書などの根拠資料を必要とする合理的配慮だけでなく、発達障害の特徴を一部有する学生にも何らかの教育上の調整を行うこととなります。しかし、これらは不透明で臨機応変な対応が求められ、担当教員や臨床指導者の困難感が強くなる傾向にあります。一方で、臨地実習は学生にとって多くの学びが得られる貴重な機会です。この臨地実習の学生の学びを促進するためにはどのような教育上の調整をしたら良いのか、学生への直接的な支援だけでなく、組織としてどのような支援体制を整備するのかについて共に検討します。企画者が開発したFD/SDプログラムを紹介し事例検討を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

対象：本テーマに関心のある医療系教職員

定員：45名



## WS-4 あなたはなぜ教育するのか？ –あなたの教育哲学を考える–

ML

企画：井上和興（鳥取大学）、種村文孝（京都大学）、角南直美（鳥取大学）、及川沙耶佳（京都大学・鳥取大学）  
孫 大輔（鳥取大学）

概要：「なぜ、あなたは教育するのか？」という問いを社会構成主義的に、その場にいる参加者・企画者が語り合うワークショップを行う。その問いに向き合うために、タスクフォースの専門領域である医学教育学、教育心理学、教育哲学などのレンズを利用する。これらのレンズを利用し、参加者・企画者の教育哲学について振り返る。医学教育の文脈では、論理的な思考に重きを置かれている。ただ、論理的な思考側面だけでは、多様な教育哲学に迫ることが難しいため、直感的に表現できるように工夫する。実際のワークの内容は、①参加者の「好き」と「嫌い」を軸に教育を語る、②絵を使いながら学習者と教育者の関係性を表現する、③教育する上で「揺れ動き」の体験を語る、などを検討している。そのワークを通して、参加者の「右脳」と「左脳」を行き来しながら、思考の飛躍を生み出し、日常の教育実践が今よりも創造的なものにつながることを目指す。

対象：教育を実施している・したことがある・しようとしている教育者（特に職種は問わない）

定員：30名



## WS-5 学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察 –5つの教育実践例

TL

企画：朝比奈真由美・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井 大（千葉大学）

概要：身体診察は疾患の診断、日々の状態の評価などに有用ですが、十分なスキルを修得するのは困難であり、学習者に効果的に指導するための教育スキルが求められます。

今回のワークショップでは、身体診察スキルを集中的かつ体系的に研鑽するための教育モデルを習得することを目的とします。ベッドサイドティーチングでの多くの経験に基づいた教育手法のTipsに留まらず、反転授業、ピア・ティーチング、テクノロジーの活用など、アクティブ・ラーニングを実践するための取組を学びます。また、身体診察を通じた患者とのコミュニケーションスキルを高める方法についても学びます。さらに、臨床実習後OSCEでも評価項目として掲げられている「診断仮説に基づく身体診察」の教育方法についても取り上げ、効果的な教育手法について検討します。どの診療科の臨床実習指導においても応用可能な、身体診察の教育法を皆で楽しく学びあいましょ。

対象：卒前・卒後の身体診察の教育方法に関心のあるすべての関係者（医師、看護師、薬剤師など）、アクティブ・ラーニングを学びたい方

定員：40名



## WS-6 英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！

A

企画：押味真之・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Raina Abad・Katrina Fanjul（国際医療福祉大学）

概要：国際化が進む中、OSCEを英語でも実施しようという大学が増えています。海外臨床実習でも役に立つ技術を身につけようとするならば、日本語のOSCEをそのまま英語にしたものでは学修効果は高くありません。このワークショップでは日本の医学部で目指すべき「英語でのOSCE」のあり方を指導方法と評価方法の2つの視点から考えます。最初に「海外臨床実習で求められる英語での臨床能力」を確認した後、英語模擬患者を使用した医学生の医療面接を実際に評価します。そこから「日本の医学部で達成可能な英語での臨床能力」を考えた後、「英語でのOSCEの指導方法」を「何を」「誰が」「どのように」行うかを Breakout Room にて議論します。最後にその議論を元に日本の医学部の実情に沿った現実的な「英語でのOSCEの評価方法」を全員で作ります。医学部留学生も参加する楽しいワークショップですので、お気軽にご参加ください。

対象：英語でのOSCEを予定している、もしくは関心のある教員・学生

定員：30名



## 参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。  
「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2021年 1月 8日(金)**

**参加費：** 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円がかかります)

参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。

参加費は、資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

**開催方法：** ZOOM (Web会議システム)

※定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。

なお、当日参加は受け付けません。

今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。  
ご理解とご協力をお願いいたします。

**今後の予定：** 以下のスケジュールを予定しております。

今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。  
ご了承下さい。

第79回  
**岐阜** 併催  
第22回教務事務職員研修  
2021/5/21-23

第80回  
**聖隷浜松**  
2021/11/13-14

第81回(Web)  
**岐阜**  
2022/1/22-23

# MEDC 機関誌「新しい医学教育の流れ」

## 「医学教育セミナーとワークショップ」報告書として

MEDCは、全国共同利用拠点として我が国の医学教育の普及・開発・向上に向け医療教育関係者対象の「医学教育セミナーとワークショップ」を毎年定期開催している。2001年より、本セミナーとワークショップの研修内容や使用した資料、企画者や参加者からの声などを一冊にまとめた活動記録として「新しい医学教育の流れ」を発刊してきた。



’02 医学教育セミナーとワークショップの記録

## MEDC 機関誌として

報告書としての色合いが強かった「新しい医学教育の流れ」を、医療人の育成および教育に関する活動報告、情報提供、意見交換を目的とした機関誌として刷新を図り、2015年7月(15巻1号)より発刊している。当センターのセミナーとワークショップやフェローシップへの「寄稿」に加えて、医療教育に関する「活動報告」と医療教育への意見や提言といった「手紙」の投稿区分を設け、これまで多職種連携教育や高大接続、シミュレーション教育などの活動報告・意見論文が掲載されてきた。



第15巻1号

## オンラインジャーナルへ

2020年度(第20巻2号)より、MEDC 機関誌「新しい医学教育の流れ」はオンラインジャーナルとして発刊している。過去にセミナーとワークショップに参加された方であれば、全文閲覧が可能であり、読者への利便性が図られた。また、投稿区分も「寄稿」「活動報告」「総説」「主張」と再整理が行われた。右のQRコードもしくは下記のURLよりオンラインジャーナルへアクセスいただける。なお、全文閲覧の際は、MEDC 受講システムへのログインが必要である。(URL: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/oj/onlinejournal.html>)



オンラインジャーナル  
ホームページ



## 今後に向けて

機関誌の内容を充実させるためには、より多くの方からの投稿が必要であり、そのための広報体制や編集体制のさらなる整備が必要である。医療教育者だけでなく、医学生や大学院生からの投稿もあるといいかもしれない。読者にとって、医療者教育の実践や意見を気軽に共有でき、且つ、学術的な知見も得られる場として本誌の位置づけを明確にし、その周知を図っていきたい。

(文責 今福輪太郎)

## 第21回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修実施要項

### 1. 目的

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修は、医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図るとともに、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的とする。

### 2. 主催

国立大学医学部長会議常置委員会（教育制度・カリキュラムに関する小委員会）  
一般社団法人 全国医学部長病院長会議（医学教育委員会）

### 3. 世話大学

岐阜大学（医学系研究科・医学部、医学教育開発研究センター）

### 4. 研修日程

令和2年5月22日（金）～令和2年5月24日（日） 日程の詳細：別紙日程表のとおり

### 5. 会場

岐阜大学医学部（岐阜市柳戸1番1）

### 6. 受講対象者、定員

国公立大学の医学部・歯学部の教務事務に従事している事務職員（経験年数不問）  
定員を60名とする

### 7. 受講者の推薦及び申込方法

可能な限り各大学から1名を推薦

ただし、一大学に医学部・歯学部がある場合は、各々1名を推薦しても差し支えない  
岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）のホームページ

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/> の事務研修申込フォームから申込み願います。  
（申込み入力・送信後、折り返し、申込を受け付けた旨の自動配信メールが届きます。）

・ 申込締切日 令和2年5月10日（日）入力分まで

### 8. 経費

・ 参加費・旅費等は、各大学の負担とする。

参加費（報告書作成費、送付代等として） 4,000円

・ 5/23合同懇親会 3,000円(参加者負担)

合計7,000円 を当日受付時に徴収し、それぞれ領収書を発行いたします。

### 9. その他

・ 参加者は各自で早めに、宿泊施設の手配を行ってください。

（参考：岐阜駅近隣のホテル）

「コンフォートホテル岐阜」\* 058-267-1311 法人番号<sup>⑭</sup>

「ホテルリソル岐阜」\* 058-267-0330

(\*予約時に岐阜大学にて研修の旨を申告することにより割引価格適用可)

「岐阜キャッスルイン」 058-262-3339

「ダイワロイネットホテル岐阜」 058-212-0055

「ドゥーミーイン岐阜駅前」 058-267-5489

・ 2日目（5/23）昼食は各自ご用意ください

第21回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修日程表

5月22日（金）		5月23日（土）		5月24日（日）	
会場	医学部（柳戸）キャンパス	会場	医学部（柳戸）キャンパス	会場	医学部（柳戸）キャンパス
		8:15	<b>送迎バス</b> JR岐阜駅前出発 岐阜大学医学部到着	8:15	<b>送迎バス</b> JR岐阜駅前出発 岐阜大学医学部到着
		9:00	<b>ワークショップ参加</b> FD/SD融合型講習会 ”医療者スターターキット”	9:00	<b>班別討議2</b> 「分野別認証評価とIRへの対応」 藤崎
12:15	<b>送迎バス</b> JR岐阜駅前出発 岐阜大学医学部到着			10:30	休憩
12:40	受付 グループ毎に着席	12:00	昼食	10:40	<b>班別討議2 発表・質疑</b>
13:00	<b>開会式</b> 国立大学医学部長会議事務局 長・一般社団法人全国医学部 長病院長会議事務局長、大学 院医学系研究科・医学部長、 センター長挨拶  オリエンテーション アイスブレイク	13:00	<b>ワークショップ参加（選択）</b> ●WS-1 教職協働で学生を支援する  ●WS-2 教務データを教育改革に使 おう～あなたの扱うデータ が、レガシーとなる～ ※WS-1又は2のどちらか選択	11:45	<b>まとめ</b> 藤崎 アンケート記入 ビタミンe-mail メーリングリスト紹介
13:50	<b>講義</b> 「医学教育の基本」（40分） 鈴木康之（医学教育開発研究 センター・教授） 質疑（10分）	16:30		12:00	<b>閉会式（修了証書授与）</b>
14:40	集合写真・休憩	16:45	合同シンポジウム参加 ：医療者教育学養成機関にお ける教職協働の未来を考える	12:30	終了（解散）
14:55	<b>班別討議1</b> 「教務事務に関する課題と対策 の共有」 藤崎和彦（医学教育開発研究セ ンター長・教授）	18:30		12:45	<b>送迎バス</b> 岐阜大学医学部出発 JR岐阜駅前まで
	<b>班別討議1 発表・質疑</b>	18:45	合同懇親会参加 （1F 生協食堂）		
17:30	終了	20:00	終了		
17:45	<b>送迎バス</b> 岐阜大学医学部出発 JR岐阜駅前まで	20:15	<b>送迎バス</b> 岐阜大学医学部出発 JR岐阜駅前まで		

# 教育活動





# PBL-Tutorial 教育

## コロナ禍の下でのテュートリアル

岐阜大学医学部医学科では全国の国立大学医学部で初めての問題基盤型学習テュートリアル教育をカリキュラムに全面的に導入した歴史がある。

テュートリアル教育を伝統の一つとすべく運用してきたが、開始より 20 年が経過し、学内でもテュートリアルの制度疲労をきたしていることが意見交換の中でするようになった。また 2015 年受審の国際認証においては、「初心に帰り、自己主導型学習を活性化すること」と見直し・改善の必要性が指摘されたので、その再編成は必然の流れであった。特に教員のファシリテーションスキルの研修や、学生からの教員評価の運用、チューターガイド、教員による学生評価の運用における改善などは、学生の能動的・自己主導的学習の姿勢に大きく影響する要因であったと考えられる。

その状況に加えて、令和 2 年初頭からは、新型コロナウイルスのパンデミックの中で、どのように教育を運用するのかという医学の教育の根幹にかかわる大きな出来事が起こった。このことにより、一気に教育のオンライン化の必要性が認識され、学生の学びを止めず効果的に学習を進めるための抜本的見直しに迫られたのが令和 3 年度であったと言えよう。

## 今年度の改善

医学部内では、令和 2 年度 2 月末より「医学系研究科・医学部オンライン講義実施対策チーム」が結成され積極的に対応策が議論・提案された。MEDC からは丹羽と西城が 3 月よりメンバーとしてアンケート調査やマニュアル作成等に尽力した。また Microsoft Teams の使用方法については、4 月に西城が学習し、まずは MEDC 担当の授業において試行を進めるため伝達講習会を行った。またのち、テュートリアル教育を再開にするにあたりオンラインテュートリアルとすることが決まった。対策チームの命を受け、対策チーム監修の下で、西城がそのチューター向けの操作マニュアル「ネコでもわかる Teams チューターマニュアル」を対策チームの名前で学内に発信することができた。

## 今後の課題

授業しかり、テュートリアルのコアタイムしかり、教室で出来たことをオンライン学習支援システムや Web 会議システムを利用して開催できたというだけでは、オンライン教育が成功したとは言えない。オンラインの強みと弱みを理解してどのように効果的かつ効率よく授業やコアタイムを通じて教育できるのかが問われている。その目標に向かって、MEDC は、医学部との連携を密にしながらか改善の一助を担えるよう努力する所存である。

(文責 西城卓也)

## チュートリアル選択配属（医学教育学分野）

### はじめに

2年次から3年次にかけて行われる「チュートリアル選択配属」では、学生の研究の基礎の理解や研究体験を通しての学びの気づきを促すことを目的としている。学生は基礎医学、社会医学、臨床医学などから研究室配属先を選択し、主体的に研究活動に取り組むことが期待される。研究手法、教員の介入度、学生の活動内容は各研究室の裁量によるところがあり様々ではあるが、全ての学生は最終週に開催される全体発表会に向けて、学生自身で研究の立案、実施、分析・考察を行なう。

### 医学教育学分野

医学教育学分野は2014年度より10週間のコースとなり（それ以前は5週間×2）、先行研究レビューや質的・量的研究アプローチを体験する時間を確保できるようになった。2020年は5名の学生がMEDCに配属された。MEDCでは、これまで医学教育を受けてきた学生が身近に感じる疑問や問題意識を大切に、彼らが取り組みたい研究課題を優先させている。

### 「チュートリアル選択配属（医学教育学）」スケジュール（2020年）

研究テーマ：講義における教員の教育的配慮と、それに対する学生の認識			
		学生の活動内容	教員の役割
質的研究 (講義担当教員)	第1週 (2月3日～7日)	研究テーマの決定、 リサーチクエスションの絞り込み	研究プロセスの概説 良いリサーチクエスションとは
	第2週 (2月10日～14日)	先行研究レビュー データ収集準備 (学生へのインタビュー調査)	文献レビューの重要性の強調 情報検索の方法の提示
	第3週 (2月17日～21日)	先行研究レビュー、 データ収集準備・データ収集	質的研究の目的・手法の概説 インタビューガイド作成への助言
	第4週 (2月26日～28日)	データ収集・分析 他大学ウェブ発表会	研究参加者リクルートの補助 ウェブ発表会の企画
	第5週 (3月2日～6日)	データ収集、分析、 学生・教員へのアンケート計画	アンケート作成計画への助言 研究倫理の理解の促し
	第6週～第10週 (4月6日～5月15日)	・新型コロナウイルス感染拡大より 選択配属（後半）を中止 ・各研究室が定めるレポート課題 に変更	レポート課題へのフィードバック

上記の2020年スケジュールが示すように、第1,2週目に、学生は研究課題・リサーチクエスションの絞り込み、先行研究レビューを行う。学生は、講義において教員はどのような教育的配慮を持っているのか、また学生は教員の教育的配慮に対してどのような認識を持っているのかを明らかにする医学教育研究に取り組んだ。本研究の目的は、「講義」に対する教員と学生の向き合い方を探索し、伝統的授業形態である「講義」の在り方を考察することで、よりよい教育のための実践的な知見を見出すこととした。

MEDCの教員は、研究手法や方法論の概説は行うが、学生の主体的研究活動に重きを置き、基本的に「助言」や「補助」といった研究のファシリテーターとしての役割を担う。2020年は、前半5週間に、質的研究アプローチから医学科2年生の基礎医学科目の講義を担当する教員8名に対して講義前の準備、講義中、講義後、コースデザインでの工夫や難しさ、教育観などのインタビュー調査を行った。

後半5週間では、量的研究アプローチを用い、医学生(2年生)に対して講義への参加意欲や講義内容、講義での教育技法、講義後の試験の在り方などに関する質問紙調査を計画した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、2020年4月以降の選択配属は中止となった。代替としてのレポート課題では、前半で経験できた「質的研究」の考え方、実施した研究の概要、そして選択配属の経験で得られた気づきや学びを各学生がまとめることを促した。

学生は、前半の5週だけではあったが、質的研究を体験することにより、「研究」への理解を深めることができたといえる。また、学生自身が抱く問題意識から生まれた課題を追究することで、活動に対する主体性の確立や内発的動機づけが促進された。研究テーマに関わりのある論文の抄読会も実施した。各学生が2編の論文を担当し、その研究内容を要約して発表することで先行研究レビューを促すことができた。

### 他大学合同ウェブ発表会

2018年度より香川大学医学教育学講座、関西医科大学医学教育学講座と合同で、学生の研究発表会を企画している。香川大学、関西医科大学では同時期(2月~3月)に3年生に対して5週間の研究室配属があり、最終週である5週目に発表会を開催することで、学生の研究活動の総括を行なう機会となっている。また、岐阜大学ではコースの半ばである4~5週目に発表会があることで、他大学の学生に研究の経過報告を行い、今後の研究の方向性を検討する機会となる。特に、発表会で自分たちの研究を「他者」へ説明したり、他大学の学生の研究活動を知ったりすることで、各々の研究を通しての学びを促進されると考える。



発表スライド (MEDC)

### レポート課題

最終週には、10週間にわたり学生の研究成果の発表会が行われる予定であったが、選択配属の後半日程が中止となり、研究発表の経験を提供することはできなかった。一方で、限られた時間の中でも学生は多くの気づきを得ることができた。下記に学生のレポート内容の抜粋を示す。

この選択配属で学んだことは、自分たちの興味を研究へと昇華させるための手段である。リサーチクエストの生成に始まり、巨人の肩の上に立つことの必要性、言語化の方法とその重要性などのプロセスを経験することができた。

テュートリアル選択配属は5月の全体発表会で終わるが、引き続き研究に従事したい学生は、学生研究員として課外時間や休暇期間に研究を行うことが可能となる。2020年度までにMEDCでは8名の学生研究員が活動し、学会発表や論文投稿・掲載を経験することができた。下記にこれまでの学生研究員の研究テーマと活動内容を示す。

#### 学生研究員（2013年～2020年）

		研究テーマ	活動
2013-14年	大口明日海	地域枠と一般枠医学生の地域医療に対する認識	学会発表、論文投稿・掲載 (「医学教育」誌 短報)
2014-15年	青木弘枝	男女医学生の学習、職業、家庭に対する認識(質的研究アプローチ)	学会発表、論文投稿・掲載 (日本プライマリ・ケア連合学会誌 原著)
2014-15年	星野奈生子	男女医学生の学習、職業、家庭に対する認識(量的研究アプローチ)	学会発表、論文投稿・掲載 (「医学教育」誌 掲示板)
2015-16年	沈 元	医学生の医師の超義務に対する考え方	論文投稿・掲載 (「医学教育」誌 意見)
2016-17年	丹羽みちる	医学生の職業観・キャリア志向性：文学的・哲学的考察	学会発表、論文投稿・掲載 (新しい医学教育の流れ Letter)
2017-18年	安田 創	学生と教員の考える研究室配属の在り方	論文投稿・掲載 (Medical Science Educator 原著)
2018-19年	清水 裕太	医学生の学業における不適切行動への意識とその実態	学会発表 (第50回日本医学教育学会大会)
2019-20年	高永 純平	留年期間中に湧きおこる感情に医学生はどのように向き合うのか	学会発表(誌上发表) (第52回日本医学教育学会大会)

#### おわりに

テュートリアル選択配属は、早い時期に学生に研究を体験させ、リサーチマインドの萌芽・涵養を促すことが大きな目的の一つである。コースデザインの観点から「テュートリアル選択配属」は自由度が高く、学生の主体性が鍵となる。MEDCでは、学生の問題意識から生まれる課題探究の奨励や学生の特性に合わせた教員の役割や介入度の設定、また、関西医科大学、香川大学との合同ウェブ発表会などの新たな学習機会の企画を行い、研究活動における学生の主体性の確立を目指してきた。今後は、多様な研究フィールドの確保やICT教材の活用、他大学との共同研究活動など、より充実した学びが得られるような工夫をしていかなければならないと考える。

#### 参考文献

今福輪太郎, 西城卓也, 鈴木康之. 学生の研究体験を活性化させるために「医学教育開発研究センターの取り組み」, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2015年, 第1号: 97—103.

(文責: 今福輪太郎)

## 模擬患者参加型実習

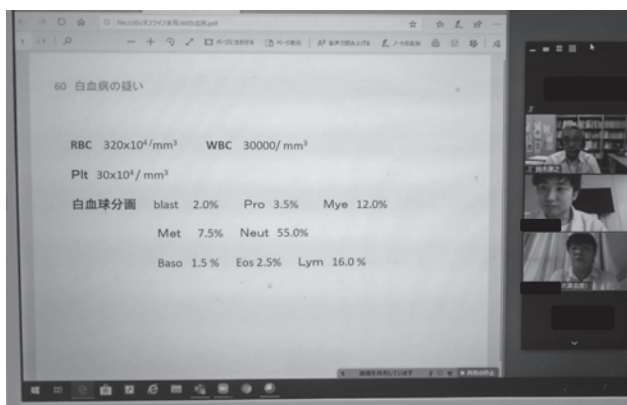
医療コミュニケーション教育として、平成9年に模擬患者参加型教育が開始され、今年度で23年目を迎えたが、新型コロナウイルス感染症の影響で例年どおりの実習を対面で実施することが困難であった。そのような状況下において、模擬患者の皆様には、オンラインでの実習や試験へ参加協力をお願いすることとなった。その結果、38名の模擬患者がオンライン（Zoom®）を利用して、医師患者関係（4年生）、臨床実習入門（4年生）、共用試験OSCE（4年生）、医療面接実習（5年生）に参加協力した。

ここでは、学内臨床実習期間中に行った模擬患者参加型実習（医療面接実習）と岐阜大学模擬患者の会について報告する。

### 医療面接実習（5年生）

この実習は岐阜大学模擬患者の会の皆様（以下 SP）に協力を依頼し、体験学習として行っている。今年度は Zoom® を利用し、オンライン医療面接実習を下記の日程で実施した。

5年生班	実施日	SP参加数
7B	6月11日	5名
1A	6月25日	6名
1B	7月30日	8名
2A	9月3日	7名
2B	10月1日	7名
3A	10月22日	6名
3B	11月19日	7名



#### 【医療面接実習 Zoom®画面】

シナリオは、検査結果の説明や服薬指導など、オンライン面接に適する症例を選択した。検査結果は写真のとおり、画面共有機能を使い模擬患者に提示しながら説明した。

## 岐阜大学模擬患者の会

・会員数：認定会員数：46名（2020年度末現在）



【会員内訳】

	人数	女性	男性
2014年以前より活動	9	8	1
養成講座 第1期(2015年)	7	6	1
養成講座 第2期(2017年)	10	8	2
養成講座 第3期(2019年)	20	11	9
合計	<b>46</b>	<b>33</b>	<b>13</b>

### ・勉強会の開催

#### 1. オンライン実習参加のための勉強会

実習のオンライン化にともない、Zoom<sup>®</sup>接続および操作方法の勉強会を下記のとおり実施し、22名の会員が参加した。

\*第1回 7月9日(木) 13時～14時

\*第2回 7月13日(月) 13時～14時

#### 2. 模擬患者オンライン大交流勉強会

MEDC主催のセミナーとワークショップ内で実施され、全国から模擬患者と養成者が参加した。岐阜大学模擬患者の会からも12名が参加した。

第77回セミナーとワークショップ 10月2日(金)

eWS-1 模擬患者オンライン大交流勉強会

### ・第4期 SP 養成講座

第4期のSP養成講座をオンラインで開催した。講座修了者で模擬患者登録希望者は2021年度4月以降に模擬患者を体験し、養成者との面談を経て会員登録の予定である。

『オンライン模擬患者養成講座』

3月3日(水) 10時～11時半

7名参加

(文責 早川 佳穂)

## 地域体験実習

地域体験実習は、初年次学生の医学への動機付けとプロフェッショナリズム教育の一環として、2008年度から岐阜大学医学部医学科の正式カリキュラムに導入された。

これまで対面授業での実習を行ってきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、遠隔授業でオンライン（Teams、Zoom）システムを用いた。そのためこれまで行ってきた実習内容や方法を全面的に変更して実施した。

### 【目標】

- 1) 地域における幼児、妊婦、高齢者と交流を行い、相手を観察するだけでなく、自分自身の行動や感情を観察することで、普段自分の人間関係を見直し、コミュニケーションの方法を模索しながら、より良い人間関係の構築の仕方を身につける。
- 2) 人の発達を学び、人生の初期、転換期、晩年期など人生のライフサイクルを理解する。
- 3) 岐阜県のこと、医療・保健・福祉システム等について関心を持つ。
- 4) 将来医療者にむけてプロフェッショナリズムの基本を学ぶ。
- 5) 遠隔授業の導入に向けて、パソコンなどの機器の扱いや、インターネット環境の整備、遠隔授業受講の態度などのリテラシーを学ぶ。
- 6) 最終課題として、Photovoice（フォトボイス）を作成し発表する。

### 【対象学年】

1年生 後期10～11月 木曜日の1・2限目

### 【実習方法とスケジュール】

9月	イントロダクション（オンライン：Teams）
	実習導入のために概要の説明
10月	実習第1週目：はじめの会（対面授業）
	実習のオリエンテーションを実施
	実習第2～7週目：実習（オンライン：Teams、Zoom）
10月～	第2週目から第7週目は、学生を6つのグループに分け、【目標】の1)～6)について課題を提示し、Teams上で討論した。
11月	コミュニケーション実習はZoomを通じて、市民ボランティアを交流をした。
	実習第8週目：まとめの会（オンライン：Zoom）
	Photovoice（フォトボイス）を用いて、グループごとに発表 アンケートの実施



### 【課題について】

#### ○コミュニケーション実習（Zoomで同期型の実習として実施）

##### \*スケジュール

9：00～ オリエンテーション

9：30～ 実習

1名の市民ボランティア（パートナー：シニアもしくは母親）と、学生2～4名を1つのグループにして、Zoomのブレイクアウト機能で交流を行った。

10：30～ ふりかえり

##### \*レポート

##### 記述する内容

①パートナーさんはどのような人だったか、②やり取りの中で、特に印象に残ったエピソードを1つ選び、具体的にその内容を記す。③パートナーさんの生きかたを分析・考察する。④③の分析・考察から何を感じるか、パートナーさんの生き方や価値観を自分に引き入れて考える。⑤自分のコミュニケーションについて振り返る。

#### ○発達に関する課題（Teamsで非同期型の実習として実施）

発達に関する動画、保育園での園児の様子動画、計4種類視聴し、提示された課題に取り組む。さらに自身の保護者から、幼いころの様子を聞き取る。

Teams上でグループごとにディスカッションする。

##### \*レポート

##### 記述する内容

①この課題から理解したこと、②保護者から聞いたことから考えたこと、③多様性のある発達やライフサイクルをどう理解し医療者としてどう関わるか

#### ○岐阜の医療（Teamsで非同期型の実習として実施）

Teams上に提示されたシナリオを読み、課題についてグループでディスカッションする。

#### ○Photovoice（フォトボイス）

実習を通じて感じたことを、写真と文章で表現する。一人一つのプロダクトを作成し、まとめの会で発表する。

### 【実習の評価】

- 1、コミュニケーション実習の出席および実習中の態度
- 2、レポート課題の提出（4種類）、ディスカッションの参加態度
- 3、実習の取り組みに対する自己評価

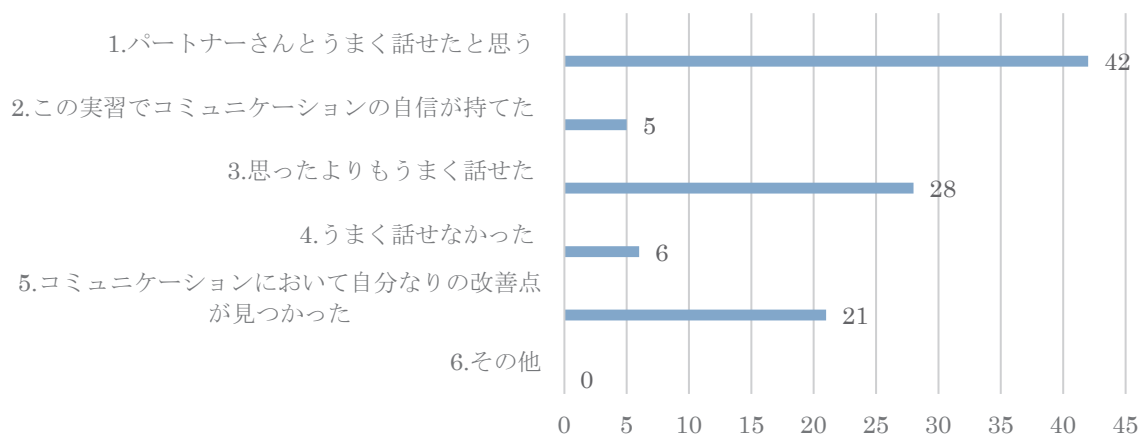
実習への参加、レポート提出の条件を満たしていること。

それぞれの課題を点数化して、総合実習評価が60点以上で合格とした。

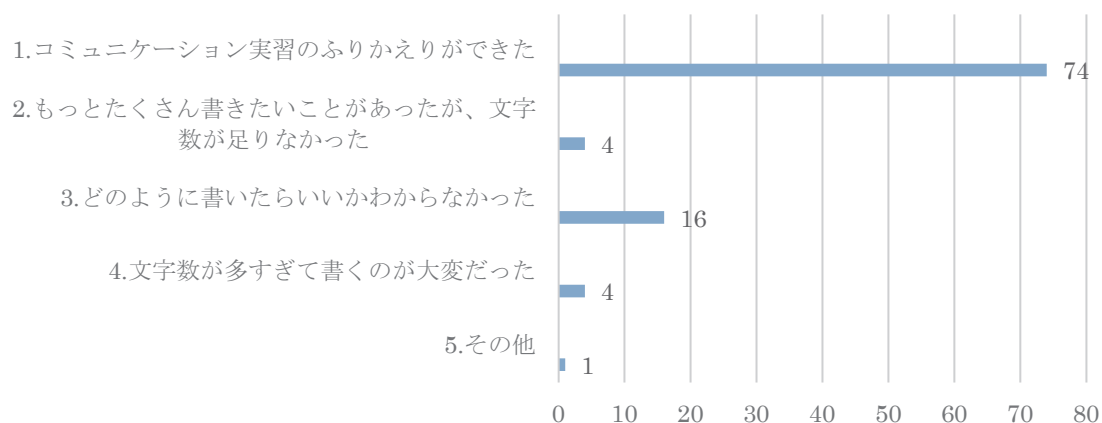
### 【実習をふりかえって】

実習終了後の学生のアンケートを以下にまとめた。

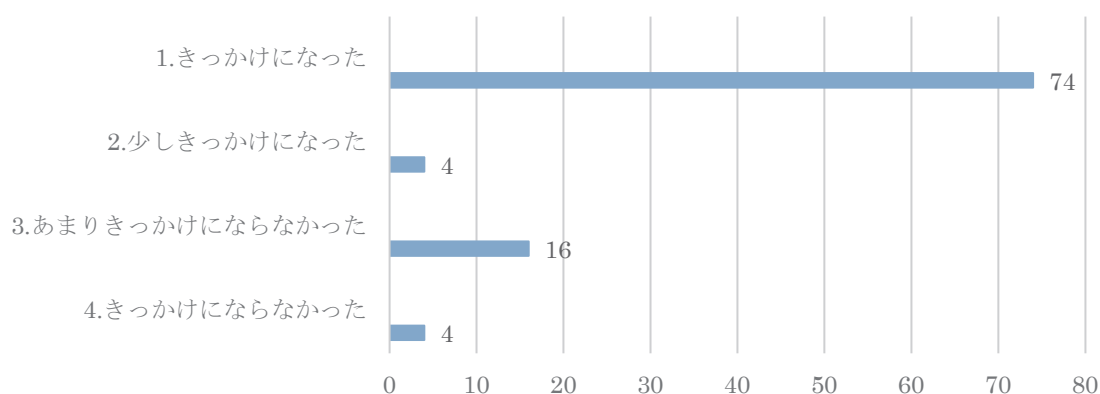
#### \*パートナーさんとのコミュニケーションについて



#### \*レポート課題について



#### \*今後医学生として考えるきっかけになったか



今年度はオンラインシステムを用いた遠隔授業となり、進め方など大きく変更したが、おおむね計画通り実施できた。また多くの学生が、医学生としてこの先のことを考える実習となったようだ。

(文責 川上ちひろ)

## 医師・患者関係

### [医師・患者の関係] 授業計画表

今年は模擬患者とのコミュニケーション実習以外はTeamsでのon-line授業となります

週	日付	時間	内容	担当
1	7月27日(月)	午前にTeamsにup	体験！医師・患者関係とインフォームド・コンセント	藤崎
2	7月27日(月)	13:00 — 16:00 1~29番:13:00集合 30~57番:14:20集合	体験！模擬患者とのコミュニケーション(1~57番対象:4年生講義室)	藤崎
3	7月28日(火)	午前にTeamsにup	患者・家族とのコミュニケーション	若林
4	7月28日(火)	午後にTeamsにup	性的マイノリティ	松尾
5	7月29日(水)	13:00 — 16:00 58~85番:13:00集合 86~113番:14:20集合	体験！模擬患者とのコミュニケーション(58~113番対象:4年生講義室)	藤崎
6	7月30日(木)	7/27にTeamsにup	コミュニケーションが苦手ってどういうこと？	川上
7	7月31日(金)	午前にTeamsにup	Bad News TellingとSPIKESモデル	藤崎
8	7月31日(金)	午後にTeamsにup	LEARNのモデルと行動変容へのアプローチ、Teamsで最終課題	藤崎

「医師・患者関係」コースは、一昨年までは医学部医学科3年生を対象に11月～12月のPBLチュートリアルコースの神経・精神・行動学コースの期間に8回にわたって行っていたが、カリキュラム改変により対象学年が4年生になったため、昨年は1年お休みした後、今年の7月27～31日の期間に8回にわたって行った。

このコースは、1年生の初期体験実習、地域体験実習を受け、4年生のOSCE前臨床入門実習と共用試験OSCEにつなげるコミュニケーション・プロフェッショナルリズム教育のもう一つの核としてのコースであり、そのねらいは、①医師・患者関係の基本的理解、②医師・患者間コミュニケーションのポイントについて理解すること、③良好な医師・患者関係形成のための基本的なコミュニケーション技能の実践、の3つである。

4年生の共用試験OSCEでの医療面接課題は、海外で臨床実習開始前に体験する一般的な医療面接課題のように、説明課題や踏み込んだ情報収集、Bad News Telling、患者教育、怒っている患者への対応等のadvancedなものにはなっておらず、あくまでも臨床実習に出る前の学生のための仮免的試験に過ぎない。

そこで、4年生のOSCEは、“あくまで仮免的課題をこなすに過ぎないもの”ととらえた上で、OSCE練習の始まる4年生の夏休み前の時期にコミュニケーション全体の幅広い能力についてのオリエンテーションを身に付け、「インフォームド・コンセント」や「SPIKESモデルによるBad News Telling」など、医師に求められる一通りのコミュニケーションスキルについて学び、模擬患者との面接も体験しておくといったカリキュラム構成になっている。

特に近年問題となっている「性における多様性の理解」という意味で名大の松尾先生にお願いして「性的マイノリティ」のセッションも例年通り実施することが出来た。

一昨年までは11月～12月のPBLチュートリアルコースの神経・精神・行動学コースの期間の中で8回にわたってポツポツと隙間を縫うように行っていたコースなので、

実施中のチュートリアルコースの自己学習の妨げとならないように、認知領域の知識獲得よりも、体験学習を通じて技能（精神運動領域）、態度（情意領域）を学習することに重点を置き、毎回1話完結型で実施し、授業時間内で感想・レポートまでを書いて終了とするように実施していた。今年からは7月27～31日という最後の1週間に8回の2時間半～3時間の授業が集中的に入るというデザインになったので、内容的にも改変することは考えていたのではあるが、コロナの感染拡大状況を受けて急遽、TeamsでのWeb授業に大きく改変せざるを得なくなって、何とかドタバタしながら創意工夫をして今回のコースとなった。

特に2回の模擬患者とのコミュニケーション体験の授業は、例年、学生からの満足度も高く、このコースの主題のひとつなのであるが、感染予防からも

体験 模擬患者セッション 進行表

※ グループふり回りの順番  
Dr役のふり回り⇒同じ班のギャラリ学生ふり回り⇒模擬患者さんのコメント

	1会場	2会場	3会場	4会場	5会場	6会場
～13:20	スタンバイ	スタンバイ	スタンバイ	スタンバイ	スタンバイ	スタンバイ
13:20～13:27	13班セッション Dr役( )	14班セッション Dr役( )	15班セッション Dr役( )	16班セッション Dr役( )	17班セッション Dr役( )	18班セッション Dr役( )
13:27～13:34	13班ふり回り 進行( )	14班ふり回り 進行( )	15班ふり回り 進行( )	16班ふり回り 進行( )	17班ふり回り 進行( )	18班ふり回り 進行( )
13:34～13:35	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代
13:35～13:42	18班セッション Dr役( )	13班セッション Dr役( )	14班セッション Dr役( )	15班セッション Dr役( )	16班セッション Dr役( )	17班セッション Dr役( )
13:42～13:49	18班ふり回り 進行( )	13班ふり回り 進行( )	14班ふり回り 進行( )	15班ふり回り 進行( )	16班ふり回り 進行( )	17班ふり回り 進行( )
13:49～13:50	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代
13:50～13:57	17班セッション Dr役( )	18班セッション Dr役( )	13班セッション Dr役( )	14班セッション Dr役( )	15班セッション Dr役( )	16班セッション Dr役( )
13:57～14:04	17班ふり回り 進行( )	18班ふり回り 進行( )	13班ふり回り 進行( )	14班ふり回り 進行( )	15班ふり回り 進行( )	16班ふり回り 進行( )
14:04～14:05	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代
14:05～14:12	16班セッション Dr役( )	17班セッション Dr役( )	18班セッション Dr役( )	13班セッション Dr役( )	14班セッション Dr役( )	15班セッション Dr役( )
14:12～14:19	16班ふり回り 進行( )	17班ふり回り 進行( )	18班ふり回り 進行( )	13班ふり回り 進行( )	14班ふり回り 進行( )	15班ふり回り 進行( )
14:19～14:20	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代	グループ交代
14:20～14:40	学 生 交 代					

模擬患者さんとの対面を今年は諦めて、ZoomでのWebを通じてのコミュニケーション体験ということとなった。また、学生の三密を避けるために学生を4～5名の小グループにして、6G毎に時間差で4つの大きな塊に分けて、ほぼ全員が模擬患者との面接を体験できるような形での実施となった。夏休み明けの9月にはプレの共用試験OSCEが控えており、本番のOSCEでもZoomによる医療面接を予定していたので、夏休み前のこの時期にZoomでの医療面接を実施できたことは、OSCEでのトライアル的な意味でもとても役に立てることが出来た。

2009年より実施してきた本授業は、毎年、学生の意見・感想を元に成績評価のあり方も含めてカリキュラムの改善を図って進化し続けることを目指している。

(文責：藤崎和彦)

# 臨床推論の実習

## はじめに

10年目を迎えた医学科4年生の臨床実習直前に行われる必修課程である。医学教育開発研究センター・総合病態内科講座・解剖学講座との合同実習である。医学生がこれまで獲得してきた臨床的知識と問題解決能力を駆使して、主訴から検査オーダーまでを総合的に推論する演習を行っており、これはプレ臨床実習の位置づけとして評価されている。診断を目指した医療面接・身体診察のみならず、感度特異度を勘案にいたした情報処理演習室での実習、さらには実践的なカルテ記載や症例提示の演習も兼ねた、臨場感のある実習である。

## 2020年のコーススケジュール

### A) 症例検討型授業

めまい・しびれ・腹痛・胸痛・発熱などといった症候を授業のトリガーとした症例検討

### B) 臨床推論とプレゼンテーション演習

データ解釈や鑑別疾患の検討を含めた臨床推論やそのプレゼンテーション能力の涵養

### C) 診療演習

情報を収集するための身体診察や基本的な検査のオーダーと解釈の理解

### D) 患者の視点の疑似体験

診断の際に重要な情報の一つになり得る患者のナラティブや、患者の立場の理解

### E) 医療安全と臨床推論

診断のエラーはなぜ生じるか、医療安全にどう影響するか、そのメカニズムの理解

## 今年度の振り返り

今年度はコロナ禍のもとでの授業であったため、Microsoft Teams やZoomを用いてハイブリッド型の授業を展開した。オンライン化させる準備や運用の苦労はあったが、県外の外部講師と繋がりを持つことができた。自己学習時間が増えたが、資料などを提供し、好きな時間に学習できる体制は講評であった。もちろん、授業オリエンテーションなどでは、対面授業を取り入れコミュニケーションを取りやすい関係性構築に努めた。そして、オンライン授業になっても操作で戸惑うことのないよう丁寧にインストラクションしたことで、何とか3週間を滞りなく終えることができた。

(文責 西城卓也)

# 海外臨床実習プログラムと医療英語課外授業

## 海外臨床実習プログラム

本学では5-6年次の選択臨床実習期間において、最長8週間の海外医療機関での実習を認めており、これを推進している。本学の教育目標には「国際医療保健」があり、在学中から国際的な経験を積み、卒業後、国際人として活躍してもらいたいという願いがある。

このプログラムに参加するためには、学生は下記申請条件を満たす必要がある。

- ・ TOEFL ITP 550点以上
- ・ 医療英語課外授業（下記）の8割以上の出席
- ・ 一定以上の学業成績
- ・ English OSCE の受験

## 2020年度 医療英語課外授業およびeOSCE

海外実習に向けた準備教育として講師にJames Thomas先生（慶應義塾大学）を迎え、医療英語課外授業を開講した。History taking, physical examination, case presentationの一連の流れを全4回の課外授業で学び、最後に第5回目のOSCEでその学習成果が評価される。20年度は、各回16~18名の学生が参加した。

<医療英語課外授業スケジュール> 講師 James Thomas（慶應義塾大学）

	日時	場所	内容
第1回	2020年2月15日(土) 10時00分~15時00分	岐阜大学医学部 教育福利棟4階講義室	History Taking - Foundations and fundamental techniques-
第2回	2020年4月18日(土) 8時45分~16時00分	Zoom 開催	History Taking - Advanced techniques and case presentations
第3回	2020年5月16日(土) 8時45分~16時00分	Zoom 開催	History Taking and Case Presentation - Headache and Abdominal pain
第4回	2020年6月13日(土) 8時45分~16時00分	Zoom 開催	Physical Examination (with focus on English communication) - Neurological examination
第5回	2020年7月4日(土) 8時45分~14時55分	岐阜大学医学部 教育福利棟4階講義室 (評価者、外国人SPはZoom参加)	eOSCE - History taking and case presentation

2020年4月の新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、対面による講義やロールプレイといった演習の中止を余儀なくされた。その代替として、第2回課外授業からはオンラインによる実習へと変更し、各回16~18名の学生を3グループに分け、2時間のセッションを3回実施することとした。また、身体診察のように対面でのロールプレイが必要

になる学習内容も、その言語面にフォーカスし、外国人模擬患者（Simulated Patient: SP）の協力のもと英語コミュニケーションの練習をオンライン上で行った。オンライン講義で学んだことを、ブレイクアウトルーム機能を活用し、すぐに実践練習することができ、学びの多い学習機会となった。特に、岐阜大学の留学生や岐阜県の在留外国人の方々からの協力により第1回と第3回には約10名のSPが参加することができた。ロールプレイ後にSPからフィードバックをもらうことで、学生は多くの気づきを得ることができたといえる。

## English eOSCE

実施日：7月4日（土）

会場：岐阜大学医学部教育福利棟4階（PBL室・講義室）＋遠隔

新型コロナウイルス感染が拡大し、翌年の海外臨床実習の参加が難しくなる中、医療英語課外授業を受講した学生16名（5年生）が、これまでの学びの総括としてEnglish eOSCEを受験した。このOSCEでは英語によるコミュニケーションと診療能力を形成的および総括的に評価することを目的としている。感染拡大防止を考慮し、学生は医学部教育福利棟へ指定時刻に集合したが、評価者および外国人SPは遠隔で参加するかたちとした。学生はパソコンの画面上にいるSPと向かい合いながら各課題に取り組むこととなった。各ステーションでのコンピューターや音響といったオンライン環境の整備や学生の動線、タイムマネジメントなど運営の準備を入念にする必要があった。評価者は、西城卓也（MEDC）に加え、James Thomas（慶應義塾大学）、Ying Foo（慶應義塾大学）、樋口翔（松波総合病院）の学外評価者と5名の外国人SPが参加した。

History taking と Case Presentation に関する3つのステーションを設置し、学生は10分間の実技試験を行った。各試験終了後には3分間の評価者およびSPからの直接フィードバックを受ける時間を設けた。また後日、評価者の評価を算出しコメントを加えた評価表と課外授業の修了証を各学生へ手渡すことができた。



eOSCEの様子

## 海外臨床実習（2020年度）

新型コロナウイルス感染拡大により、海外渡航の制限や病棟実習の在り方が問われ、2020年4月以降、学生は海外臨床実習に参加することができなくなってしまった。海外実習・渡航に向けて英語だけでなく医学や文化について自学自習し、航空券や宿泊、予防接種などしっかりと準備してきた学生が突如海外実習に参加できなくなった姿をみると心が痛い。このような状況を打破するためにも、オンラインを活用した新たな国際交流、海外臨床実習の在り方を模索していく必要があるだろう。

（文責 今福輪太郎）

## 医学教育分野における Institutional research の取り組み

Institutional Research (IR) とは、学内のデータを収集・分析・報告することによって学内の改善を促すことを指す。岐阜大学医学部医学科では、平成 27 年 12 月に WFME Global Standard に基づいた医学教育分野別評価を受審したことを契機に、平成 29 年から「医学教育 IR 室」が正式に稼働をスタートし、学生およびカリキュラムを統括的に評価する役割を担うこととなった。

### 【令和 2 年度の取組】

#### 1. データの収集・分析

センター試験（共通テスト）の難化に伴う地域枠の定員割れという課題を受けて、推薦入試におけるセンター試験の基準と受験倍率に関するシミュレーション結果を入試委員会に提出した。また、平成 30 年度より導入された統合型卒業試験に付随する各種データ解析を引き続き行った。さらに、ここ数年の懸案となっていたカリキュラムに関する悉皆調査を、学部および同窓会の協力のもと実施した。

#### 2. IR に関する学外活動

第 76・77 回 MEDC セミナーとワークショップにて、IR に関連する e-シンポジウムおよび e-ワークショップを開催した。e-シンポジウムは中止となった第 21 回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の代替コンテンツとして開催され、教務職員が多く参加した。また、e-ワークショップは、第 52 回医学教育学会にて、「第 2 回医療系 IR 友の会ミーティング」がコロナ禍により紙上開催となった代替として開催し、積極的な情報交換を行った。

#### 3. 学術的活動

今までの IR 活動の知見をまとめた論文を、BMC Medical Education に発表した (Tsunekawa.et.al. BMC medical education, 20(1), 419)。

### 【今後の展望】

データの収集・分析に関しては、今後も継続的に実施し、学内の新たな教学的課題に即応していきたい。来年度は、カリキュラムに関する悉皆調査により得られたデータを解析し、改革に反映する提言を行うこととする。

学外活動に関しては、医学教育学会に「教育プログラム評価推進委員会」が発足したことを受け、「医療系 IR 友の会」との連携を図るとともに、各所で得られた知見を論文化し、さらに全国に発信していくことを目標とする。





# その他の事業



## 大学院博士課程 医学教育学分野

平成20年度(2008年4月)に岐阜大学大学院医学系研究科医療管理学講座の一分野として「医学教育学」分野が開講されて以来、MEDCの指導教員7名が兼務して教育研究に当たっている。

2020年度は大学院生9名が在籍し(いずれも臨床・教育経験を充分積んだ社会人学生)、各自の教育分野に応じて、独自の研究テーマを設定し、積極的な研究活動を行っている。

**教育目標：**医学教育学は医学・医療教育分野における多面的な課題を究明し、効果的な教育方法を研究する学問領域であり、研究だけでなく、教育に関する具体的な知識やスキルの習得をもめざしている。本課程の修了者は、医学教育学の専門家として、教員・医師・学生等を指導でき、教育システムを自ら構築・改善し、研究を遂行できることを目標としている。

### 大学院4年間の全体像(年次目標)

	研究活動	教育ノウハウ
1年次	研究テーマ(リサーチクエスション)設定 英文誌文献調査(ERIC・Google Scholar等) 文献調査を基にした総説・報告の国内誌投稿 研究計画書執筆・倫理委員会申請 予備調査(small study)	教育理論・技法の修得 (各種ワークショップ参加) 教育プログラムのプランニング
2年次	<b>本格調査</b> 予備調査や文献調査の国内学会発表 論文骨子の構成	教育プログラムの実施と振り返り ワークショップのTask forceの経験
3年次	本格調査とデータ分析 国際学会発表 <b>原著論文執筆・投稿(優秀論文→学位授与)</b>	教育プログラムの実施 研修会の企画・実施
4年次	研究総括 論文受理、学位審査	<b>学位授与</b>
5年次～	<b>長期履修の場合(最長8年次まで)</b>	

2020年度は下記論文が受理され、2名に学位が授与された。

1. Nunohara K, Imafuku R, Saiki T, Bridges SM, Kawakami C, Koji Tsunekawa K, Niwa M, Fujisaki K, Suzuki Y. How does video case-based learning influence clinical decision-making by midwifery students? An exploratory study. BMC Med Educ 2020; 20:67

#### <Abstract>

**Background:** Clinical decision-making skills are essential for providing high-quality patient care. To enhance these skills, many institutions worldwide use case-based learning (CBL) as an educational strategy of pre-clinical training. However, to date, the influence of different learning modalities on students' clinical decision-making processes has not been fully explored. This study aims to explore the influence of video and paper case modalities on the clinical decision-making process of midwifery students during CBL. **Methods:** CBL involving a normal pregnant woman was provided for 45 midwifery students. They were divided into 12 groups; six groups received the video modality, and six groups received the paper modality. Group discussions were video-recorded, and focus groups were conducted after the CBL. Transcripts of the group discussions were analysed in terms of their interaction patterns, and focus groups were thematically analysed based on the three-stage model of clinical decision-making, which includes cue acquisition,

interpretation, and evaluation/decision-making. **Results:** The students in the video groups paid more attention to psychosocial than biomedical aspects and discussed tailored care for the woman and her family members. They refrained from vaginal examinations and electric fetal heart monitoring. Conversely, the students in the paper groups paid more attention to biomedical than psychosocial aspects and discussed when to perform vaginal examinations and electric fetal heart monitoring. **Conclusion:** This study clarified that video and paper case modalities have different influences on learners' clinical decision-making processes. Video case learning encourages midwifery students to have a woman- and family-centred holistic perspective of labour and birth care, which leads to careful consideration of the psychosocial aspects. Paper case learning encourages midwifery students to have a healthcare provider-centred biomedical perspective of labour and childbirth care, which leads to thorough biomedical assessment.

2. Yoshimura M, Saiki T, Imafuku R, Fujisaki K, Suzuki Y. Experiential learning of overnight home care by medical trainees for professional development: an exploratory study. *Int J Med Educ* 2020;11:146-154.

<Abstract>

**Objectives:** In an ageing society, community-based medical education in a home care setting needs to be developed. Drawing on Kolb's experiential learning theory, this study aimed to explore the learning processes in overnight home care by medical trainees in terms of their understanding of terminally ill patients and their conceptualization of them-selves as future physicians. **Methods:** An overnight home care program in which a trainee had to take care of terminally ill patients on his/her own under the supervision of a healthcare team was conducted. Nineteen trainees, including eight medical students and 11 residents, participated in this study. Text data of reflective reports written after the overnight care were collected and thematically analyzed. **Results:** The trainees' learning experiences in the program were categorized into four stages: predeparture, concrete experience, reflective observation and abstract conceptualization. Although they had mixed feelings, including anxiety, fear and expectations, at the predeparture stage, they could be actively involved in providing medical care and daily life support and in taking care of dying patients at the patients' homes overnight. By reflecting on their experiences, they gained a sense of achievement and identified the aspects upon which they should improve as future physicians. Subsequently, based on their reflective observation, they conceptualized their approaches to home care and the roles/responsibilities of physicians as healers, which led to professional identity formation. **Conclusions:** Overnight home care by medical trainees has the potential as an educational strategy to promote their realistic understanding of home care and facilitate professional identity formation.

# 大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程

## はじめに

令和 2 年度、岐阜大学から文部科学省に設置の申請をしていた岐阜大学大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程が認可された。これで、日本で初めての医療者教育学の修士課程が我が国に設立されたことになる。この課程設立には、森脇岐阜大学学長はじめ、理事の皆様、事務長はじめ企画課などの職員の皆様等、医学部医学科の多数の先生方のご協力の賜物であることに心から感謝申し上げます。本課題は国際標準の医療者教育を展開できる全国のリーダーを輩出すべく、ますますの修士課程の発展が求められるだろう。

## 医療者教育学

医療者教育学とは、医療者の育成に関する学問である。大学・臨床研修病院などの医育機関において、学生や新人を、指導者がどのように教育するのかについて扱う学問である。指導者が学習者をどのように教え、評価し、どのようなプログラムで育成するのかをデザインし、改善を試みるためにその成果を検証するために必要な教育学に関する学問である。我々は、「医療者教育学とは、様々な医療系専門職の教育者が、医療系学生と若手医療者を指導するにあたり、その指導上の多面的課題を究明すべく、職種を超えてその課題の根源にある教育学(例:教育方法・評価・プログラム開発)を体系化し、その研究を推進する学際的学問」と定義づけている。

## 設置のニード

本課程の設置は以下のようなニードが背景にあった。

### <医療者教育学の専門家養成の緊急性>

- 医療や社会構造の変化に対応できる次世代の医療者教育のリーダー育成
- 医療分野での教育の質保証と持続的改革
- 多職種連携教育による医療福祉の推進
- 初期研修制度・新専門医制度の改革
- 立ち遅れる我が国の医療者教育学の大学院教育

### <社会からの期待とニーズ>

- 次世代の医療者を育成できる指導者への期待
- 教育面での国際発信力
- 医療者教育を担う専任部門の確立と専門家養成のニーズ

## 専攻・修士課程のミッション

グローバルな視野をもちつつ、ローカルな視点から、医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導するため、多職種の人材と連携し、医療者教育を設計・実践・改善・発信できる能力のあるリーダーの育成が本専攻のミッションである

## ディプロマ・ポリシー

医療者教育学専攻では、学び続ける姿勢・学ぶノウハウを伝える学習促進者/ファシリテーター

(facilitator)として学習者に合わせた効果的教育を追求し、多様な人材育成や教育組織の運営・改善に取り組みつつ、我が国ならではの医療者教育や学識体系を設計・構築し、国際的に発信できる人材を育成することとし、以下に示す能力等を修得したものに学位を授与することとしている。

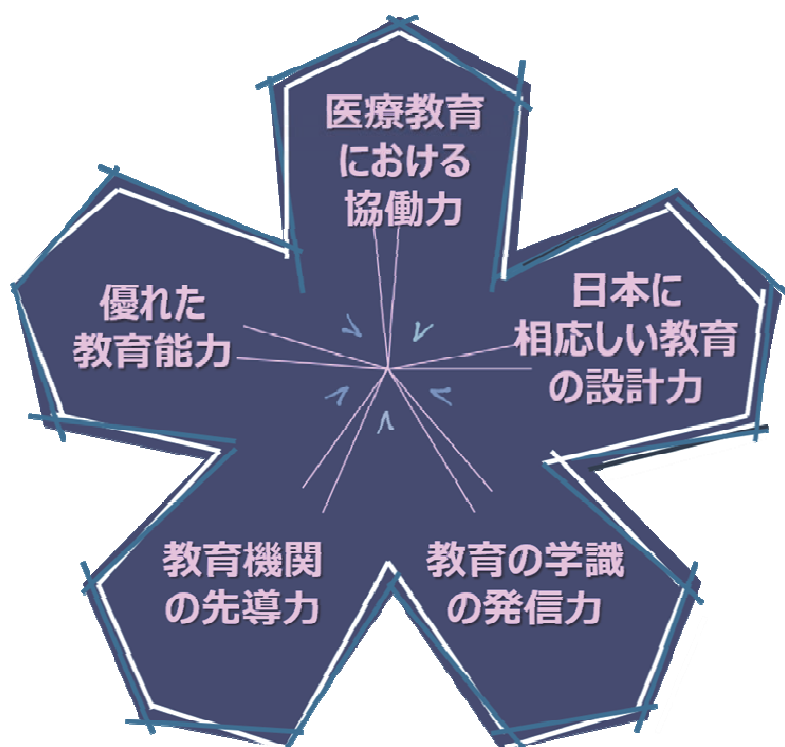
DP1)優れた教育能力:国際標準の教育理論に基づき、学習者に合わせた効果的教育ができる能力

DP2)医療者教育における協働力:機関・専門・職種・国境を越えて、多様な人材育成に取り組める能力

DP3)日本に相応しい教育の設計力:世界の医療者教育の趨勢を把握しつつ、日本の国情や教育文化を加味した教育を計画・開発できる能力

DP4)教育機関の先導力:先導力を発揮し、教育組織を運営・改善できる能力

DP5)教育の学識の発信力:教育研究により得られる知見や学識を発信する能力



岐阜寒梅をモチーフにした修士学生が目指すコンピテンシーモデル

### カリキュラム・ポリシー

医療者教育学専攻では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた5つの能力を修得するため、以下の方針に基づいて体系的な教育課程の編成を行う。

CP1)遠隔地学習と現地学習のブレンド:e-learning を活用した遠隔地学習と現地学習のブレンドにより、多様な学習方略を適用した効率的かつ効果的なカリキュラムの編成

CP2)柔軟な自主的学習を支えるツール:柔軟な自主的学習を支える学習ツールを活用したカリキュラムと学習環境の充実

CP3) グローカルマインドを涵養する学習コンテンツ: グローカルマインドを涵養する科目の実施と学習コンテンツの活用

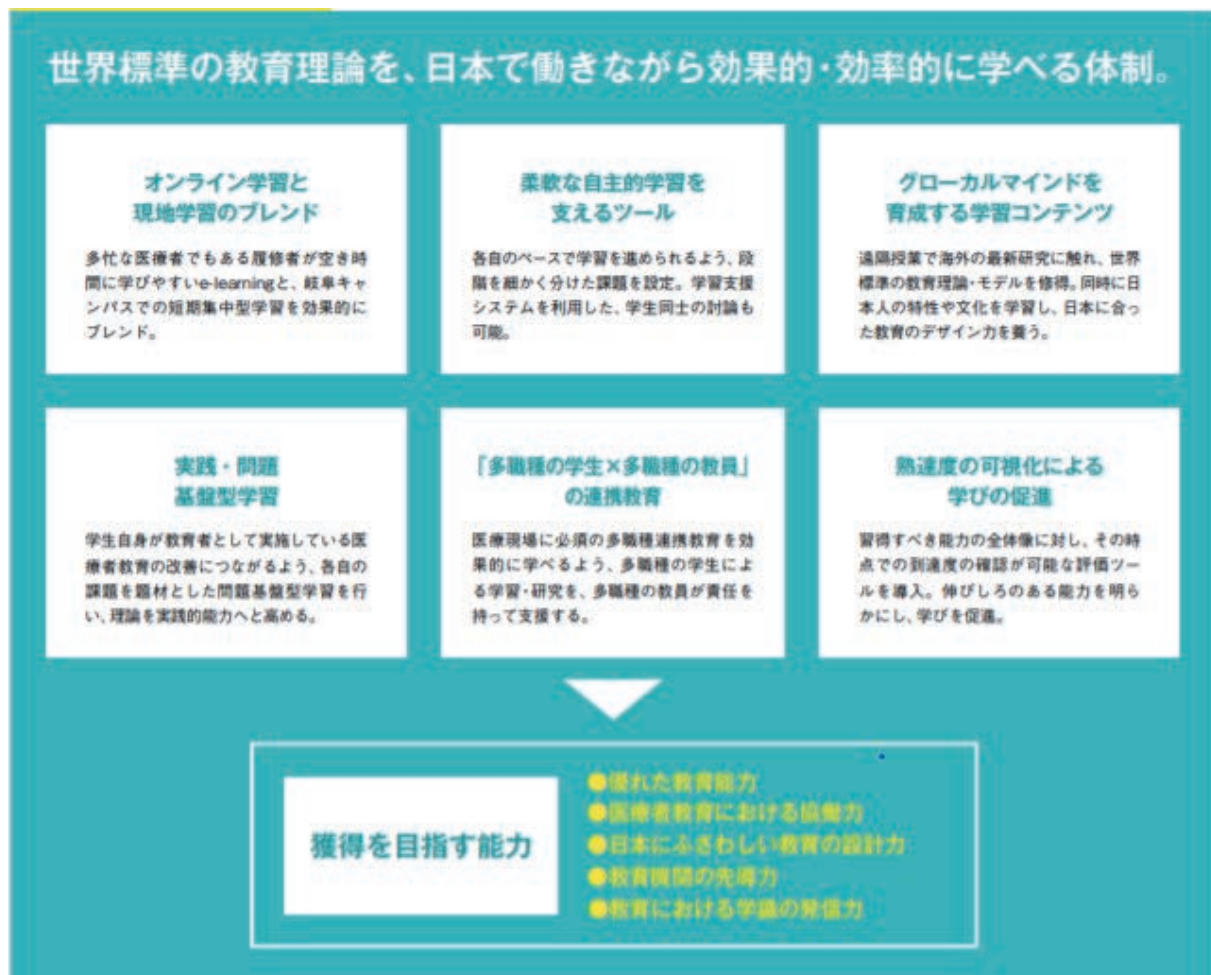
CP4) 実践・問題基盤型学習: 実践的理論を修得するための実践・問題基盤型学習の実施

CP5) 多職種連携教育を多職種の参加者で学び究める: 多職種の参加者で学び究める多職種連携教育の実施

CP6) 熟達を可視化する評価と、評価を学びにつなげるプログラム化された評価システム

## カリキュラムの特色

- 1) 国際標準の医療者教育学修士課程カリキュラム
- 2) 段階的に履修できるカリキュラム編成
- 3) 学習マネジメントシステムによる e-learning と問題基盤型学習
- 4) 定期的なキャンパス学習による対面授業・実技演習・実地研修
- 5) 多様でフレキシブルな対面指導による人材育成



## カリキュラムの特色

(岐阜大学広報誌 いぶき 40号より)

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



## アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定める各種能力を有する人材を育成するために、以下の資質を有する人材を受け入れる。

AP1) 医療者教育のオピニオンリーダーになる意欲のある者

AP2) 医療者教育において、教育実践、評価、プログラム開発を含む様々な実務経験がある者

AP3) 創造的・協働的・自己主導的であり、医療・教育機関で働きながら継続的に学べる者

AP4) 医療者教育のグローバルな動向への関心があり、それを学習できる者

AP5) 医育機関の教職員・医療機関の医療従事者、もしくはその専門分野で教育的役割を担う役割に就く者(専任、主任、兼任、予定者含む)

## 2年間の履修スケジュール・テーマ・科目の配置

本専攻は学際科目 4 単位(Unit1 と 2)、専門必修科目 14 単位(Unit3~9)、特別研究 8 単位(Unit17~18)、専門選択必修科目 4 単位(Unit10~16)、合計 30 単位の修得を必要とする。以下にその概要を示す。類似した科目(Unit)が、一つの Theme に2つ包含され、2つの Unit が有機的に結びつく状態で全体的な学習が可能になっている。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3										
1年目	テーマ1 教育の多様性の拡がり		テーマ2 学びとその評価		夏季休暇	テーマ3 学びの総体的デザイン		テーマ4 人材育成から組織改革へ		テーマ5 教育実践の改善と教育研究												
	1	2	3	4		5	6	7	8	9	冬季休暇	17	春季休暇									
	多職種協働と地域連携 医療における		医療者教育の社会的意義			効果的な教育方法 教育理論と		学習者評価の原理と 評価方法		カリキュラムの開発と評価				医療者教育における グローバル化と 日本での展開		医療系教育者の 教育能力開発		医療者教育の改革における リーダーシップと マネジメント		教育実践報告と改善 のための批判的吟味		
	C e		e			C e		e		C e				e		C e						
	C e		e			C e		e		C e		e		C e								
2年目	テーマ6 教育の専門性			テーマ7 グローバルな視野			テーマ8 実践と知見の融合															
	10	11	13	14	15	16	18															
	ニオイける 教育現場に シミュレーション 教育の開発		e-learningに おける学習支援		e-learning・ シミュレーション 教育の開発		医療者教育実践の調査と研究															
	e		e C		e		C															
	e		C e		e e		e															
e C		e C		e C		e																
e C		e C		e C		発表																

2年間のカリキュラムの全体像

科目区分	授業科目名称(全 18 科目)	年次
学 際 科 目	医療における多職種協働と地域連携	1 年次
	医療者教育の社会的意義	
	小計(2 科目)	
専 門 科 目	教育理論と効果的な教育方法	1 年次
	学習者評価の原理と評価方法	
	カリキュラムの開発と評価	
	医療者教育におけるグローバル化と日本での展開	
	医療系教育者の教育能力開発	
	医療者教育の改革におけるリーダーシップとマネジメント	
	教育実践報告と改善のための批判的吟味	
選 択 科 目	臨床教育現場における教育的コミュニケーションスキル	2 年次
	e-learning における学習支援	
	医療者教育研究のプロトコル立案	
	e-learning・シミュレーション教育の開発	
	教育実践の視察と外部評価	
	北米における医療者教育	
特 別 研 究 科 目	医療者教育研究技法の基本	1 年次
	医療者教育実践の調査と研究	2 年次

2 年間で履修が可能な科目

## 令和 2 年度報告

令和元年度秋に、英語の筆記試験と Multiple Mini Interview 試験(MMI)にて選抜を行った。定員は6名で、倍率は2.5倍であった。初年度から、全国からの複数の医療職の教育関係者から応募があった。令和3年度入学生のための入学試験も、令和2年度秋に実施した。初年度同様に全国から複数の医療職のご応募があり、同様の倍率で6名の学生が合格した。令和2年度は、6名の入学者(理学療法士1名、歯科医師1名、医師4名(大学2名・臨床研修病院2名))を迎え、4月にスタートすることができた。年5回の岐阜大学キャンパスでのスクーリングは、前半3回は完全オンライン開催とした。設置申請においては、完全キャンパススクーリングを開催する計画であったため、なんとか後半2回は感染対策について大学病院に諮りながら、キャンパス開催を計画した。各学生の所属機関のルールや感染状況ともオンライン参加の学生・講師と、現地参加の学生・講師とが同期して学習するハイフレックス授業を実施した。幸いなことに感染者を出すことなく無事に遂行する

ことができた。学生は学習マネジメントシステムである Moodle を利用しつつ、適宜 Zoom や Microsoft Teams を使ってコミュニケーションを取り、協働学習に励んだ。

## 今後の展望

初年度から、コロナ禍のため運用の方法を変更せざるを得ない状況であったが、教育の方略におけるトレンドが大きく変化したため、令和 3 年度も引き続き対応が迫られることになろう。考えられる検討事項の要約をまとめた。

- 本課程は、オンライン学習とスクーリング学習のハイブリッド学習を基盤とするカリキュラムであり、今後どのような運用にするのが望ましいか？
- 感染対策をしながら、安全に多職種連携を学ぶフィールドワークを遂行するためには、どのようなアプローチがあるか？
- ユーザーインターフェイス・学習マネジメントシステムのそれぞれの相性を加味した場合、どのようなシステムの組み合わせと運用が望ましいか？
- 視察・現地経験学習を伴う科目をどのように運用するのが望ましいか？  
令和 3 年度は、1年生と2年生が並行して履修するので、より効率と効果を考えながらの運用が求められる。

## 関連記事

- 西城卓也. 医療者教育学を学ぶ修士課程 グローバルスタンダードの称号 MHPE を目指して. 地域医学.34(8) 598-603.2020.
- 西城卓也, 鋪野紀好:我流よ,さらば! 医療者教育学を体系的に学ぼう.週刊医学界新聞.第 3362号.2020.  
[https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2020/PA03362\\_01](https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2020/PA03362_01)
- 西城卓也, 今福輪太郎, 恒川幸司, 浅田義和:Post COVID-19 時代の医療者教育における新たな再考テーマ: 医療者教育学修士課程の実践から. 医学教育, 51(3), 351-353.2020.
- 岐阜大学. 【ひらけ! 授業の扉】岐阜大学大学院医学系研究科「医療者教育学専攻修士課程」医療者教育のエキスパートを育成する、日本初・唯一の修士課程が誕生。岐阜大学広報誌 いぶき 40号(2020年12月)  
<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>

(文責 西城卓也)

## 臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）の取り組み

はじめに

臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）は教育福利棟 4 階にあり、医療で必要な基本的な技術を、シミュレータ等を用いて練習／学習できる、主に卒前教育を対象にした施設である。

利用者の多くは医学部医学科学生であり、その利用目的は臨床実習および選択臨床実習期間中の臨床実習技能訓練、OSCE 前実習や OSCE 試験である。また、自主勉強を希望する学生にも使用許可を出し、複数回の利用があった。例年は、その他、学生サークル活動での定期利用がみられたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、活動制限があったため、利用回数は少なかった。

医学部医学科生以外では研修医オリエンテーションの実技研修、看護師の新人研修および特定行為研修に使用された。

その他、オープンキャンパスや各種研修が中止あるいはオンライン実施になったため、全体の利用実績は大幅に減少した。

スキルスラボで管理するシミュレーターの貸出に関しては、今年度も多方面からの利用があった。

### ◆スキルスラボの利用◆

#### 【スキルスラボ利用者数と内訳】

利用者所属	利用人数（人）
医学部生	663
医師・看護師・教員	270
その他	43
合計	976

2020年4月1日～2021年3月31日

利用目的	回数	利用人数（人）
臨床実習	42	331
臨床実習入門・OSCE	11	248
サークル活動	7	89
自己学習	7	102
授業	6	22
その他（研修など）	22	184
合計	95	976

## 【臨床実習期間におけるシミュレーション教育】

4-5年次の臨床実習、5-6年次の選択臨床実習の一環として各科の教員の指導の下、シミュレータなどを用いたトレーニングが行われた。

### <4-5年次の学内臨床実習>

#### ① 腰椎穿刺トレーニング（小児科）

腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ “ルンバールくん II” および “小児ルンバール” を使用して成人、小児の腰椎穿刺のトレーニングを行った。

#### ② 心音・呼吸音の分類学習（総合内科）

心臓病診察シミュレータ “イチロー”、呼吸音聴診シミュレータ “ラング” を使用して心音・呼吸音の分類学習を行った。

#### ③ 縫合実習（第2外科）

縫合手技トレーニングフルセットを使用して縫合手技のトレーニングを行った。

#### ④ 成人の腰椎穿刺トレーニング（神経内科）

腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ “ルンバールくん II” を使用して成人の腰椎穿刺の一連の手技を学んだ。

### <5-6年次の選択臨床実習>

#### ⑤ 採血、静脈路確保のトレーニング（総合内科）

採血・静注シミュレータ “シンジョー II”、点滴静注シミュレータ “Vライン” を使用して採血、静脈路確保のトレーニングを行った。

#### ⑥ 気管挿管トレーニング（総合内科/救急）

気道管理トレーナーを使用して挿管トレーニングを行った。

## 【臨床実習前の臨床実習入門】

9月に開催される客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：以下OSCE）の直前に行われる臨床実習入門の実習環境を整えた。さらにOSCEに向けた自己学習を推進するため、臨床実習入門開始からOSCE前日までの間、日程を定めて、スキルスラボでの自主練習時間を設けた。人数制限を設けた完全予約制とし、新型コロナウイルス感染症への感染対策を行いながら、学生に利用を促した。

## 【学生サークルの活動支援】

新型コロナウイルス感染症の影響で学生サークル活動の制限があり、利用回数は例年に比べ大幅に減ったが、「基本的臨床技能の会（きりんの会）」、「Gifu Emergency Medical students(GEMs)」がスキルスラボでの活動を行った。

### 【研修医オリエンテーション】

昨年度に引き続き、研修医オリエンテーション内の採血・静脈確保の実技研修を開催した。採血・静注シミュレータ “シンジョー II”、点滴静注シミュレータ “Vライン” を使用して実習が行われた。



### 【看護師新人研修】

看護師の新人研修において、フィジカルアセスメントに関する実技研修が、呼吸音聴診シミュレータ “ラング” やフィジカルアセスメントモデル “フィジコ” を利用して開催された。

### 【看護師特定行為研修】

看護師特定行為研修のプログラムの一環で、動脈採血シミュレータを利用した実技研修が実施された。

### ◆シミュレータの貸出◆

附属病院内での研修医、看護師の研修会や勉強会、学生の学外でのサークル活動、ACLS や ICLS コース、新生児蘇生法講習会などへのシミュレータの貸出を行った。

使用目的	件数
研修医・看護師 研修会	7
BLS/ICLS/ACLS など	13
その他	1

貸出シミュレータ	件数
AED	9
気道管理トレーナー	2
レサシアンシミュレータ	8
ベビーアン・レサシベビー	7
新生児シミュレータ SimNewB・SimPad	3
マロンちゃん	1
レサシジュニア	1

〈文責 早川 佳穂〉

# MEDC ホームページ

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

医学教育開発研究センター (MEDC) は医学/医療者教育に関する各種の情報、教育ツールを MEDC ホームページから発信し、全国から利用出来る形態を取っている。その詳細は毎年発行の MEDC 年報に記載してきた。2020 年度の主な項目を以下に記す。

The screenshot shows the MEDC homepage with several key areas highlighted by red boxes and numbered annotations:

- ① MEDC Online course (アソシエイト/フェロシップ):** Located in the 'Online Course' section, highlighting the 'アソシエイト・フェロシップのご案内' and '第2回! 魅力的なIPEを作ろう' announcements.
- ② FD・SD:** Located in the '医学教育セミナーとワークショップ・事務研修' section, highlighting the '第80回 医学教育セミナーとワークショップ in 聖隷近松' event.
- ③ 公募オンライン募集:** Located in the footer, pointing to the 'ワークショップ公募' button.
- ④ 修士課程:** Located in the 'Gifu Medical Education e-learning system' section, pointing to the 'Skills-lab' and '臨床スキル シミュレーションラボ'.
- ⑤ MEDC 機関誌オンライン化:** Located in the '新しい医学教育の流れ Online Journal' section.
- ⑥ 年報のオンライン化:** Located in the footer, pointing to the 'MEDC関連書籍・年報など' button.

図1 2020年度MEDCフロントページ(図中の丸数字は文中参照のこと)。

## 主な項目

### 1. MEDC Online course ①

#### アソシエイト・フェロシップサイト

MEDC では主に医療教育者を対象とした「医学教育セミナーとワークショップ (S&W)」を原則年4回開催している。また、さらなるキャリア開発を支援するため、online システムを主体としたアソシエイト制度ならびにフェロシップ プログラムを実践している<sup>1)</sup>。すなわち S&W で所定の単位を取得した参加者を「アソシエイト」と、アソシエイトの単位を満たし online 履修により医学/医療者教育学を学び、合格した者を、「フェロ」と認定するものである。2020 年度は従来モジュール 1, 2, 3 として開講してきたフェ

ローシッププログラムを統一し、「メドギフト2020」として1タームで開講した（図2、アソシエイト・フェローシップの項参照）。

なお、2021年3月より開講の「メドギフト2021」はシステムを刷新し、Moodleにて実施予定である（図3）。

MEDC Fellows Online Course		FELLOWSHIP	
ホーム	ログイン		
コース一覧		ページ: 1/1	
コース	開催期日	状況	
メドギフト2020	2020年03月02日	終了	
概略: メドギフト2020 ディレクター: 今福 輪太郎 (岐阜大学), 西城 卓也 (岐阜大学), 福田ゆう (岐阜大学医学部事務部教育企画係)			
			実施回数: 4

図2 2020年度に実施したMEDC online コース

## 2. 医学教育セミナーとワークショップ (FD) と教務事務研修 (SD) ②

MEDC では年4回「医学教育セミナーとワークショップ (S&W)」を開催し、基本的にそのうち2回を他大学と共催し岐阜以外の地での開催としてきた。また毎年全国の教務事務職員を対象とした「国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修 (教務事務研修)」を毎年岐阜の地で開催してきた。

今年度は昨年度に引き続きFD・SD融合/教職協働の目的のもと、第76回S&Wと第21回教務事務研修を共同での開催とし、医学部キャンパスならびにサテライトキャンパスにて実施予定であったが、COVID-19によるコロナ禍のため、教務事務研修が中止となり、第76回S&Wをオンラインによる単独開催とした（医学教育セミナーとワークショップ、事務研修、コロナ禍でのなかでのオンラインの項参照）。

2021年		
第78回 e医学教育セミナーとワークショップ	1月22日 (金) ~23日 (土)	Web開催

2020年		
第77回 e医学教育セミナーとワークショップ	10月2日 (金)~4日 (日)	Web開催
第76回 e医学教育セミナーとワークショップ 併催: 第21回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修	5月23日 (土) ~24日 (日)	Web開催
第21回 国公立大学医学部・歯学部 教務事務職員研修	5月22日 (金) ~24日 (日) 新型コロナウイルスの影響を鑑み中止	岐阜大学医学部
第75回 医学教育セミナーとワークショップ	1月25日 (土) ~26日 (日)	岐阜大学医学部

図3 2020年度開催の医学教育セミナーとワークショップならびに教務事務職員研修



### ワークショップの公募 ③

S&W において実施されるワークショップは原則公募により決定している。2020 年度も、2021 年度実施ワークショップを公募した (図 4)

#### 令和3年度開催 医学教育セミナーとワークショップ ワークショップ公募

医学教育共同利用拠点として、岐阜大学医学教育開発研究センターでは「医学教育セミナーとワークショップ」を開催し、77回を数えました。これほど長く続けられているのも、ひとえに魅力あるワークショップをご企画いただいた皆様方のご尽力の賜物と存じます。

今後も医療教育で活躍される皆様から利用していただける拠点を目指し、来年度の医療教育に関するワークショップを、【第79回岐阜：2021年5月21(金)-23日(日)】、【第80回聖隷浜松病院：2021年11月13(土)-14日(日)】、【第81回web開催：2022年1月22(土)-23日(日)】の日程で公募いたします。なお、今年度から公募申請がWeb化しましたので、ご了承のほどお願い申し上げます。

皆様のご応募をお待ちしております。

#### 応募について

[<< 公募申請フォームはこちら](#)  
申込を締め切りました

- ・左記公募申請フォームに必要事項を入力の上、送信願います。また送信後下記メールアドレスまでご連絡下さい。(添付資料等がありましたら併せてメールに添付しお送り下さい)
- 締め切り： 2020年11月30日(月) 必着
- メールアドレス： [medc@gifu-u.ac.jp](mailto:medc@gifu-u.ac.jp)
- ※当センターにて審議のうえ、2020年12月下旬頃に結果を通知いたします。

図4 2020 年度ワークショップ公募要領

### 3. 医療教育学専攻修士課程 ④

岐阜大学 MHPE  
Gifu University 医療者教育学専攻修士課程

岐阜大学 MEDC 学生専用 オンライン相談会申し込み

## MHPE

岐阜大学 医療者教育学修士課程

岐阜大学MHPE 紹介動画 [CLICK](#) R3年度 入学をお考えのかたへ

### ABOUT US

岐阜大学大学院医学系研究科には4つの専攻が設置されています。私たちは、その中に2020年4月より新たに設置された、「医療者教育学専攻」です。本専攻は、6つの教育研究分野、すなわち、医療者能力開発学、医療者教育プログラム開発学、医療系倫理・社会医学教育学、総合病態内科学、地域医療教育学、医師育成学、から構成されます。私たちのミッションは、あらゆる医療系専門職の教育について、その開発・実践・研究をリードすることです。そしてグローバル (Globalization-Localization) の視点から、医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導すべく、多職種の人材と連携し、医療者教育のコンピテンシーを有する優れた人材の育成を目指します。

GOING BEYOND BOUNDARIES

岐阜大学大学院 医学系研究科 医療者教育学専攻 修士課程のご紹介

岐阜大学 大学院 岐阜大学 GYU UNIVERSITY

- オンライン相談会への申込み
- R3年度 入学をお考えのかたへ
- R3年度学生募集要項 (ダイジェスト版)
- R3年度出願書類

図5 医療者教育学専攻修士課程のフロントページ

2020年4月、岐阜大学大学院医学系研究科に医療者教育学専攻修士課程が設置された(図5)。本専攻(定員6名)は、グローバルな視野をもちつつ、ローカルな視点から、医療の資質向上に寄与する医療者教育を展開し先導するため、多職種の人材と連携し、医療者教育を設計・実践・改善・発信できる能力のあるリーダーの育成を目指すものである。2020年度は6名が入学した。(医療者教育学専攻修士課程の項参照)

#### 4. MEDC 機関誌 「新しい医学教育の流れ」⑤

MEDCでは医療人の育成および教育に関する活動報告、情報提供、意見交換を目的とした機関誌「新しい医学教育の流れ」をS&Wの開催後にその報告書もかねて発行してきた(年4回)。2020年度からS&Wの開催を年3回とすることに合わせ、年3回の発行とし、更に20巻2号からはオンラインジャーナルとして刷新することとした。S&W参加者は全文閲覧が可能である。(MEDC機関誌「新しい医学教育の流れ」の項参照)

新しい医学教育の流れ Online Journal

ISSN 2435-9114

「新しい医学教育の流れ」は、MEDCの機関誌であり、医学教育セミナーとワークショップの活動報告や参加者の学びの共有だけでなく、みなさまの医療者教育の実践を含めた情報交換に資することを目的としています。

- 過去にセミナー&ワークショップに参加された方が、全文閲覧可能です
- 著作権の範囲内でご利用ください

第20巻 (2020年)		
No.2	目次	全文
No.3	目次	全文

「新しい医学教育の流れ」に掲載される方は、[こちら](#)をクリックしてください

第20巻(2020年)No.1以前のバックナンバーは冊子体のため、[MEDC関連書籍](#)からご購入ください

新しい医学教育の流れ 第20巻3号

活動報告	シミュレーション教育の充実に必要なもの — 質的統合法(KJ法)による検討 — 信岡拓彦、望月篤、黄世捷、藤原多鶴子、 伊野美幸、井上莊一郎	135
主張	もうひとつのマインドフルネスである 茶道と医学教育 森谷満	139
第77回 e医学教育セミナーとワークショップ 報告 Reports of 77th e-Seminar and Workshop on Medical Education 2020年10月2日(金) - 4日(日) @Zoom		
はじめに	岐阜大学 医学教育開発研究センター 藤崎和彦	141
Contributors	.....	142
e WS - 1	模擬患者オンライン大交流勉強会 企画：藤崎和彦、川上ちひろ、早川佳穂	144

図6 新しい医学教育の流れ Online Journal


5. MEDC 関連書籍 (2020 年度) ⑥

MEDC関連書籍 Medical Education Development Center, Gifu University	
<p>新しい医学教育の流れ第20巻2号よりOnline Journalとなりました。 こちらからご覧ください。Online Journalはこちら</p>	
<p><b>2020年度医学教育共同利用拠点 医学教育開発研究センター 年報</b> 編 岐阜大学医学教育開発研究センター</p>	
	<p>A4判 <b>Online Annual Report 2020</b> 2021年 春 完成予定</p>
<p><b>新しい医学教育の流れ 第20巻1号</b> 編 岐阜大学医学教育開発研究センター</p>	
	<p>A4判 84頁 本体価格 2,035 円 (税抜) 2020年07月31日発行 ISBN : 9784866932675 ISSN : 2189-8572 【ご購入はこちら】 (株) 三恵社オンラインショップ</p>
<p><b>新しい医学教育の流れ 第19巻3号</b> 編 岐阜大学医学教育開発研究センター</p>	
	<p>A4判 86頁 本体価格 2,035 円 (税抜) 2020年04月01日発行 ISBN : 9784866932071 ISSN : 2189-8572 【ご購入はこちら】 (株) 三恵社オンラインショップ</p>

図7 2020 年度発行 MEDC 関連書籍

6. 医学教育ユニット ⑦

全国の医学部・医科大学等には医学教育のセンター的役割を果たす専門部門が設置されている。2020 年度には、全医学部・医学校 81 校中すべてに何らかの教育担当部門が設置され、これら医学教育担当部門を「医学教育ユニット」と称している<sup>1)</sup>。MEDC はこのユニットの会の事務局的な役割を果たしてきており、そのユニット機関会員名簿を MEDC-HP に掲載している<sup>2)</sup>



## ユニットの会

医学教育の全般的な改革に伴い、講座単位の教育から医学部全体で協働的、統合的に取り組む教育の時代に入った。このような高度の医学教育体制の構築に専門職的な教員が日本各地の医学部に誕生し、さらにこれらの教員の所属部署(いわゆるユニット)も設置された。その初期の頃の教員は新しい分野への取り組みに戸惑うことも多かったため、情報の交換を求めて自然発生的に“集まり”がもたれる事となった。

「医学教育ユニットの会」への入会希望者はMEDC (medc@gifu-u.ac.jp)へお申込み下さい。

「医学教育ユニットの会」申し合わせ事項
1. 本会の名称は「医学教育ユニットの会」とする。
2. 本会は医学教育専門部局（医学教育ユニット）の教員を中心として、それ以外にも医学部、医科大学における医学教育専門部局の活動に関心のある有志の個人により構成する。
3. 本会の目的は、医学教育専門部局の教員間の情報・経験交流を基本とする。
4. 本会の活動は主にインターネット上のメーリングリストにおいて行い、年に1度、日本医学教育学会大会に合わせて集まりを持つものとする。
5. 本会の事務局は当面、岐阜大学医学部医学教育開発研究センターにおく。
6. 本会の運営に関しては若干名の世話人を中心に行うものとする。世話人の任期は2年とし、再任を妨げない。
7. メーリングリストにより収集したデータをユニットのメンバー間で共有することは可能であるが、正式な研究データとしては取り扱わない。（2015年度総会決議として付記）
世話人（2019年8月～2021年7月）
高橋 誠（北海道大学）
椎橋実智男（埼玉医科大学）
長谷川仁志（秋田大学）
平形道人（慶應義塾大学）
大槻眞嗣（藤田医科大学）
藤崎和彦（岐阜大学）
山脇正永（京都府立医科大学）
赤池雅史（徳島大学）
鈴木敬一郎（兵庫医科大学）
小松弘幸（宮崎大学）

全国医学教育ユニット機関名簿

(岐阜大学分、2020.4.1: 随時更新)

岐阜大学	医学教育開発研究センター (MEDC)	センター長、教授	藤崎 和彦	専任	
		教授	鈴木 康之	専任	
		准教授	西城 卓也	専任	
		併任講師	川上 ちひろ	専任	
		併任講師	今福 輪太郎	専任	
		助教	恒川 幸司	専任	
		特任助教	早川 佳穂	専任	
		特任教授	丹羽 雅之	専任	
		医学教育IR室	室長、教授	塩入 俊樹	併任
			副室長、助教	恒川 幸司	併任

7. MEDC ホームページリニューアル

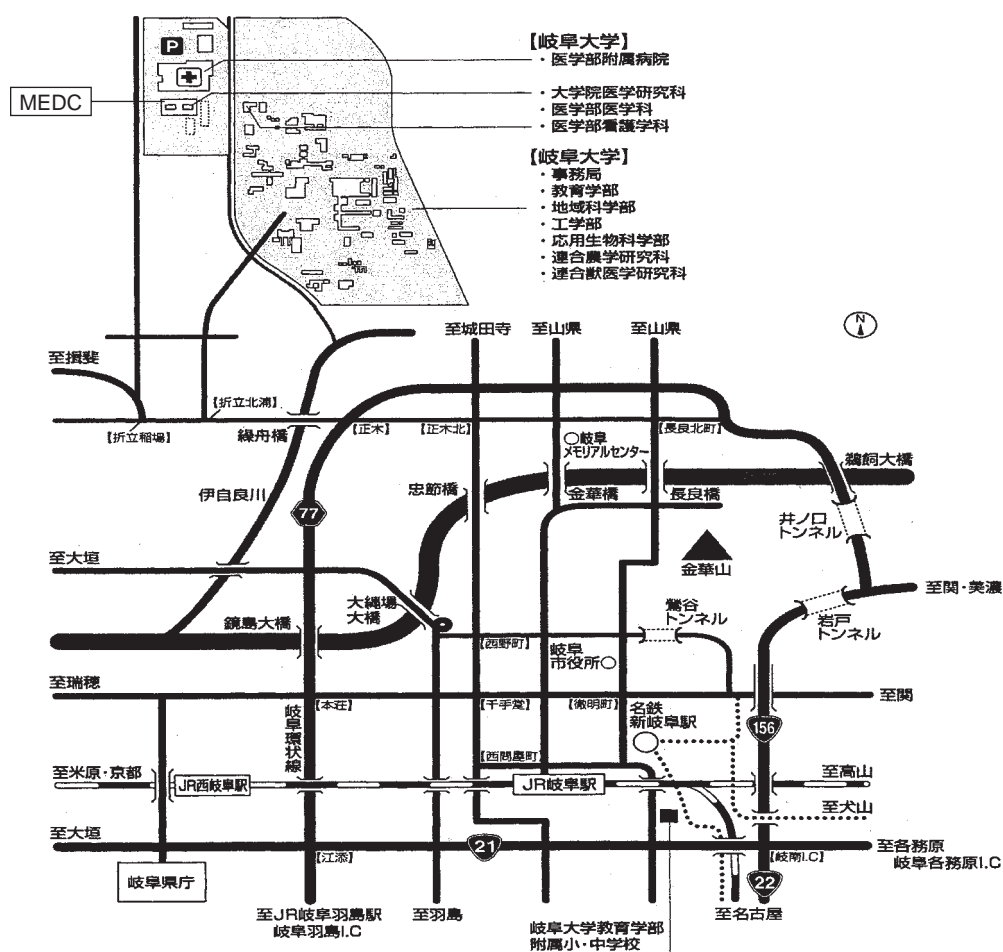
現在のMEDC ホームページはMEDC 設置 10周年を迎えた2010年にリニューアルしたものですでに10年を経過し、さすがに老朽化が目立つ。20周年を迎えた本年度より、新たなホームページ作りに着手している。次号の年報ではその全容をご報告できる予定である。

参考

- 1) 丹羽雅之：医学教育ユニットの現状，医学教育白書 2018年版 医学教育別冊 篠原出版 新社/医学教育学会編. 139-142, 2018
- 2) <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/unit/unit.htm>

(文責 丹羽雅之)

## 岐阜市内地図



## 医学教育開発研究センター 2020年度年報

発行 令和3年5月

編集

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1

Medical Education Development Center (MEDC), Gifu University

Yanagido 1-1, Gifu 501-1194, JAPAN

TEL: +81 58 230 6470 FAX: +81 58 230 6468 E-mail: medc@gifu-u.ac.jp

Homepage: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc>

発行所 株式会社コムラ

〒501-2517 岐阜市三輪ぷりんとぴあ3

